Cisco TelePresence

SX、MX、DX シリーズ

Collaboration Endpoint Software 8

D15314.14

2017 年 2 月

目次

目次 2

ドキュメントの変更履歴 6

Collaboration Endpoint Software 8 の概要 7

このソフトウェア バージョンに関する重要な注意と警告 7

TC から Collaboration Endpoint Software 8.x にアップグレードする前の機器および機能に関する考慮事項 7

TC から Collaboration Endpoint Software へのアップグレード 8

TC から CE にアップグレードする前の注意事項 9

Collaboration Endpoint Software から TC へのダウングレード 9

CE8.3.1 - リリースされた Android から CE への新しい変換ロード 10

CE8.3.0 - 廃止される機能に関する事前告知：Cisco TelePresence Server を使用した MultiStream 10

CE8.3.0 - SHA-1 の廃止 10

リリースされた CE から Android への新しい変換ロード 11

DX 上の Collaboration Endpoint Software：Android から CE への変換ロード 11

CE8.1.0 - HTTPS 用 TLS 1.0 のサポート中止 12

CE8.0.0 - Collaboration Edge 用の更新された CA 証明書 12

RSA3 で署名される Collaboration Endpoint Software の CUCM 用 cop ファイル 12

カメラ ファームウェア 13

SX20 Quick Set および SX80 カメラ サポート 15

提供を停止したソフトウェアバージョン 16

すべてのプラットフォームに対応する CE8.0.0、CE8.0.1、CE8.1.0 の提供停止 16

SX20 用 CE8.0.0 の提供停止 16

CE8.3.1 の新機能 17

CE8.3.1 の新機能の説明 18

Cisco DX70 および DX80 用の新しいスタートアップ ウィザードの動作 18

CE8.3.0 の新機能 19

CE8.3.0 の新機能の説明 20

Cisco DX70 および DX80 で有効になった新機能 20
Wi-Fi のサポート 20
Intelligent Proximity のサポート 20
室内制御 21
UCM 機能のサポート 21
コンピュータ ネットワーク ポートでの IEEE 802.1x 認証の有効化 21
室内制御：仮想ソースを使用した外部ビデオ スイッチャーの制御 22
CMS 2.1 を使用したアクティブ コントロールのサポート 22
LAN でペアリングされた Touch 10 を使用した Spark オンボーディング 23
MX700、MX800、および MX800 Dual の省電力モード 23
マイナー変更 24
xAPI に表示できるメディア チャネルの詳細 24
HttpFeedback のフォーマット オプション 24
Cisco DX70 と DX80、および Cisco TelePresence SX10 で利用可能なネットワーク スピード設定 24
最初にスタートアップ ウィザードを実行する際の高度なセットアップ モード 24
コール制御下の Web インターフェイスで利用可能なキーパッドからの DTMF トーン 24
Intelligent Proximity – ワイヤレス共有サービスのデフォルトでの有効化 25
CE8.2.2 の新機能 26
CE8.2.1 の新機能 27
CE8.2.0 の新機能 28
CE8.2.0 の新機能の説明 29
Cisco DX70/DX80 の Collaboration Endpoint Software のサポート 29
完全な Collaboration Endpoint ポートフォリオ用の Cisco Spark オンボーディング 31
Touch 10 UI の変更 31
Cisco TelePresence SX10 Quick Set の H.323 サポート 32
LDAP ユーザ認証のサポート 32
非管理者クレデンシャルを使用した Touch 10 のペアリング 32
室内制御の追加エントリ ポイント 33
マイナー変更 34
デフォルトのオプション キーの削除 34
新しいユーザ ロール：「RoomControl」 34

Multistream 要件の更新 34

CE8.1.1 の新機能 35

CE8.1.1 の新機能の説明 36

重大なセキュリティ バグ CSCuz26935（CVE-2016-1387）が修正された CE8.1.1 36

CE8.1.0 の新機能 37

CE8.1.0 の新機能の説明 38

Cisco TelePresence SX10 Quick Set の Cisco Spark アクティベーション（CTS-SX10N-K9） 38

新しいビジュアル デザイン 39

室内制御 39

PresenterTrack 40

Intelligent Proximity の更新 40

マウス ポインタの共有 40

オンスクリーンでの Intelligent Proximity サービスの有効化/無効化 40

遠端へのプレゼンテーションの直接共有 41

マイナー変更 41

オンスクリーン オーバースキャンの調整 41

暗号化されたアクティブ コントロール シグナリングのサポート 41

MultiSite コールおよびポイントツーポイント コールでのオーディオ アバターの削除 41

リモート ロギング 41

CE8.0.1 の新機能 42

CE8.0.1 の新機能の説明 43

CE8.0.1 でなされた SX20 Quick Set の重大なバグ（CSCux85199）の修正 43

CE8.0.0 の新機能 44

CE8.0.0 の新機能の説明 45

Cisco Intelligent Proximity 45

Cisco Proximity による、PC/MAC クライアントからエンドポイントへのコンテンツ共有 47

Cisco Proximity アプリケーションの可用性と要件 48

Multistream 49

マイク LED の動作変更 50

詳細設定のオンスクリーン認証 51

TRC6 との併用時の SX20 Quick Set ユーザ インターフェイスと SX10 Quick Set との同一化 51

サポートされる解像度 51
SX10 Quick Set での 1080p 表示解像度 51
マイナー変更 51
DHCP オプション 150 の常時要求 51
VU メーターを使用した超音波ペアリング品質の測定 52
CUCM から HTTPS のみを使用するようにエンドポイントをプロビジョニング 52
ホワイトボードへのスナップの改善 52
CE8 の未解決および解決済みの不具合 53
バグ検索ツールの使用 53
既知の制限事項とアドバイザリ 55
制限事項とアドバイザリ 55
相互運用性 62
H.323 ゲートキーパー/トラバーサル サーバ 62
SIP レジストラ/プロキシ 62
ゲートウェイの相互運用性 62
MCU の相互運用性 63
ストリーミング サーバ 63
管理サーバ 63
エンドポイントの相互運用性 64
カメラ 66
xAPI の変更 67
Cisco TelePresence systems のハードウェア依存 68
はじめに 68
Cisco TelePresence Touch 10 のハードウェア依存 70
Cisco TelePresence Touch 10 用の新しいハードウェア リビジョン 70
ソフトウェアのファイル名 71
ソフトウェア整合性の確認 72

マニュアルの変更履歴

リビジョン	日付	説明
14	2017 年 2 月 1 日	マイナー修正
13	2017 年 1 月 26 日	CE8.3.1 のリリース、Cisco DX シリーズ用の新しいスタートアップ ウィザード機能のマイナー リリース、および Cisco DX シリーズ用の Android から CE8.3.1 への新しい変換のリリース
12	2017 年 1 月 4 日	Collaboration Endpoint Software 8.3.0 のリリース
11	2016 年 10 月 19 日	DX シリーズ用の CE から Android への新しい変換のリリース
10	2016 年 10 月 4 日	CE8.2.2 のリリース、バグ修正によるマイナー リリース
09	2016 年 8 月 17 日	CE8.2.0 用の Multistream 要件に関するマイナー修正とアップデート
08	2016 年 7 月 11 日	デバイス パックの要件に関する更新
07	2016 年 7 月 8 日	DX70/80 の変換ロードに伴うリリース ノートの更新を Cisco.com で公開
06	2016 年 7 月 1 日	CE8.2.1 のリリース、バグ修正によるマイナー リリース
05	2016 年 6 月 27 日	Collaboration Endpoint Software 8.2.0 のリリース
04	2016 年 5 月 4 日	CE 8.1.1 のリリース、バグ CSCuz26935 の修正によるマイナー リリース
03	2016 年 4 月 8 日	Collaboration Endpoint Software 8.1.0 のリリース
02	2016 年 1 月 20 日	CE8.0.1 のリリース、バグ CSCux85199 の修正によるマイナー リリース
01	2015 年 11 月 25 日	Collaboration Endpoint Software 8.0.0 のリリース

Collaboration Endpoint Software 8 の概要

このリリース ノートでは、Cisco TelePresence MX200 G2、MX300 G2、MX700、MX800、MX800 Dual、SX10、SX20、SX80、Cisco DX80、および DX70 の Collaboration Endpoint Software バージョン 8 に組み込まれている機能について説明します。Collaboration Endpoint Software は、前述のエンドポイントでのみサポートされます。

Collaboration Endpoint Software バージョン 8 は、http://www.cisco.com からダウンロードできます。

このソフトウェア バージョンに関する重要な注意と警告

重要な点として、TC ソフトウェアから Collaboration Endpoint Software にアップグレードする前に、現在の環境が変更内容をサポートすることを確認してください。アップグレードする前に、リリース ノートを十分にお読みになることをお勧めします。

TC から Collaboration Endpoint Software 8.x にアップグレードする前の機器および機能に関する考慮事項

次の機器および機能は、Collaboration Endpoint Software ではサポートされていません。

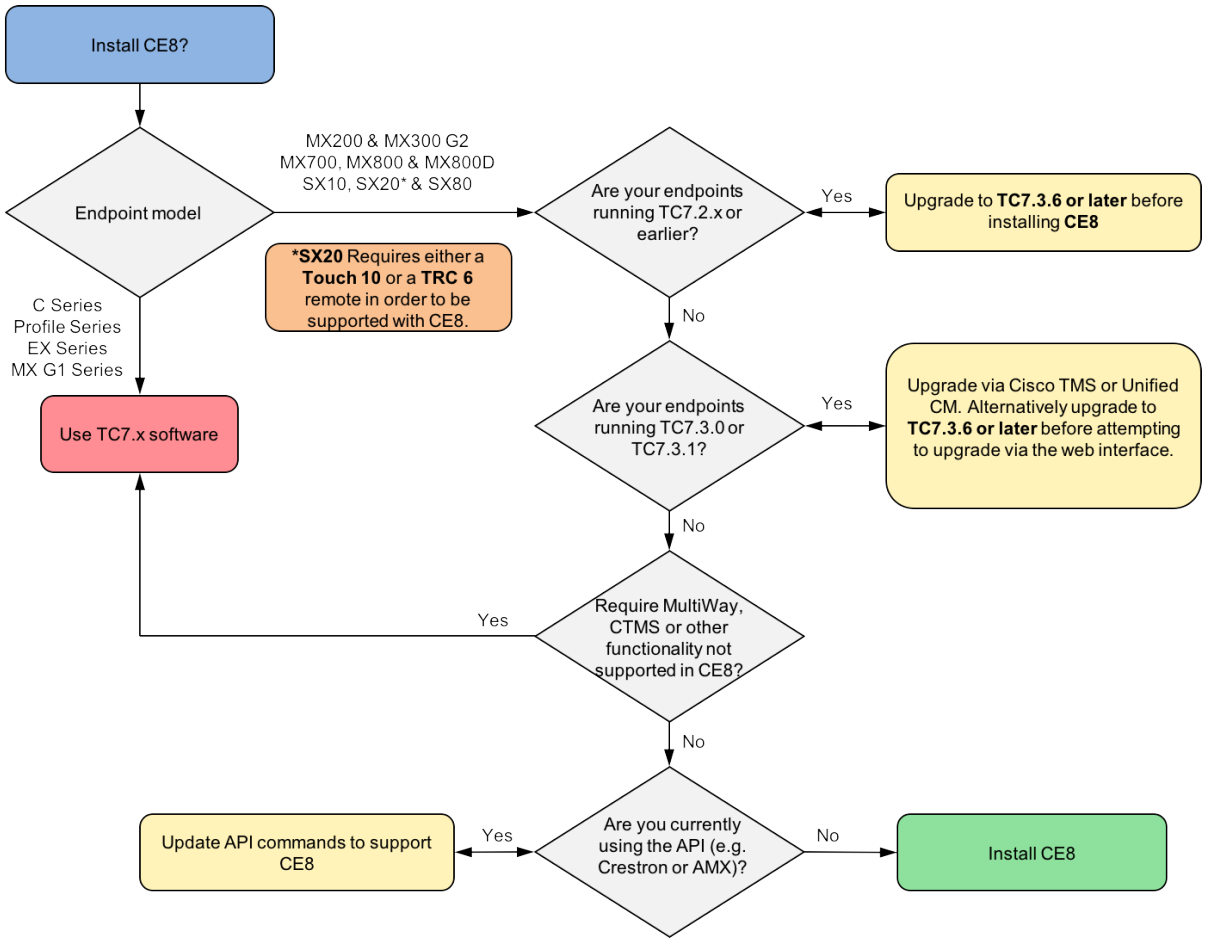
- Cisco TelePresence Touch 8
  - Cisco TelePresence Touch 10 に差し替え
- Cisco TRC5 以下のリモート コントロール
  - リモート コントロールをコントロール デバイスとしてサポートするシステム（SX20 および SX10）では、Cisco TRC6 リモート コントロールに差し替え
- Multiway
  - アドホック会議に差し替え（CUCM MediaResourceGroupList が必要）
- CTMS（TIP/MUX）
  - Cisco TelePresence Server（仮想とアプライアンス）、Cisco TelePresence MCU、および Cisco TelePresence Conductor などのマルチポイント会議ソリューションに差し替え
- Medianet（Prime Collaboration Manager のモニタリングに影響あり）
- TC コンソール
  - 「CE コンソール」に差し替え（音声専用）

注：大きな関連性はないと見なされるマイナーなサポート中止については、ここには記載しません。それらの変更については、API のガイドを参照してください。

TC から Collaboration Endpoint Software へのアップグレード

TC ソフトウェアから Collaboration Endpoint Software へのシステム アップグレードは、新しいエンドポイント ポートフォリオ内のすべてのエンドポイントでサポートされます。

次の図は、アップグレードの適格性を検証する一例にすぎません。実際にはアップグレード前に考慮すべき他の環境要因が存在している可能性があります。



Touch 8 または TRC5 リモート コントロールのいずれかを使用する Cisco TelePresence SX20 Quick Set では、Collaboration Endpoint Software にアップグレードしないでください。Collaboration Endpoint Software を使用してエンドポイントを稼働するには、Touch 10 または TRC6 リモート コントロールが必要です。

TC から CE にアップグレードする前の注意事項

- Collaboration Endpoint Software は、C シリーズ、Profile シリーズ、EX シリーズ、および MX G1 シリーズなどを含む、従来の Cisco TelePresence ポートフォリオではサポートされていません。
- Collaboration Endpoint Software は、TC ソフトウェアの基盤を継承していますが、TC ソフトウェアの後継としてではなく、新規ソフトウェアと見なしてください。
- エンドポイントがすでにこれらのバージョンのいずれかを実行している場合には、TC7.3.3 以上からのアップグレードがサポートされます。そうでない場合には、Collaboration Endpoint Software へのアップグレードに進む前に、エンドポイントを TC7.3.6 以上にアップグレードすることをお勧めします。TC7.3.3 から TC 7.3.5 はすでにダウンロードでは入手できません。
- Collaboration Endpoint Software の TC7.3.0 および TC7.3.1 からのアップグレードは、Web インターフェイス経由ではサポートされません。これらのソフトウェア バージョンは Cisco.com で提供が停止されており、使用できなくなっています。これらのソフトウェア バージョンからのアップグレードは、TMS または CUCM 経由では実行できます。
- Cisco TelePresence SX20 Quick Set が Collaboration Endpoint Software でサポートされるようにするには、Touch 10 または TRC6 リモート コントロールが必要です。
- Collaboration Endpoint Software を実行するコーデックに Touch 8 をペアリングすると、特定のタッチ コントローラがサポートされていないという警告メッセージが画面上に表示されます。
- Collaboration Endpoint Software を実行するコーデックで TRC5 を使用すると、サポートされないコマンドを受信したときに、警告メッセージが画面上に表示されます。
- CE8.0.0 を実行するエンドポイントには、TMS 15.0 以上が必要です。互換性を保つため、常に最新バージョンを使用することをお勧めします。

Collaboration Endpoint Software から TC へのダウングレード

Collaboration Endpoint Software から TC ソフトウェアへのダウングレードは、サポートされています。Touch 10 パネルとペアリングされたシステムを Collaboration Endpoint Software から TC にダウングレードすると、Touch 10 パネルは自動的にダウングレードされます。まず CE8.x から TC7.3.6 以上にダウングレードし、それからさらにダウングレードを行うことをお勧めします。

CE8.3.1 - リリースされた Android から CE への新しい変換ロード

以前の Android から CE への変換ロードは、新しいロードに置き換えられます。

古い（削除される）ロード：

- cmterm-synergy-ce8_2_1_no_defaults.cop.sgn

新しい（古いロードと置き換わる）ロード

- cmterm-synergy-ce8_3_1_no_defaults.cop.sgn

変換ビルド間の違いは、CE8.3.1 へのアップグレードにより Wi-Fi がサポートされ安定性が改善したことです。含まれる機能に関する詳細は、以下の CE8.3.0 リリース ノートを参照してください。CE から Android に再変換する場合は、CE8.2.x にダウングレードする必要があることに注意してください。詳細な指示については、次のリンク先の変換ガイドを参照しください。

http://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/desktop-collaboration-experience-dx600-series/products-installation-guides-list.html

CE8.3.0 - 廃止される機能に関する事前告知：Cisco TelePresence Server を使用した MultiStream

MultiStream の会議エクスペリエンス（参加者をデュアルスクリーン システムの両側に表示する）を提供するためのサポートが、Cisco Meeting Server（CMS）で予定されています。CMS 製品と Collaboration Endpoint の開発が集中的に行われることになっています。このため、Telepresence Server ベースの MultiStream 実装のサポートは、将来の CE ソフトウェアリリースでは廃止される予定です。

CE8.3.0 - SHA-1 の廃止

2017 年初旬に最も普及しているいくつかのブラウザで SHA-1 の廃止が予定されているので、CE8.3.0 を実行中のエンドポイントのすべての自己署名証明書は SHA-2 署名で再生成されます。コーデックの Web インターフェイスへの接続に問題が発生する場合は、使用しているブラウザが SHA-2 をサポートしているか確認してください。

リリースされた CE から Android への新しい変換ロード

以前の CE から Android への変換ロードは、新しいロードに置き換えられます。

古い（削除される）ロード：

- dx80.ce8.2.0-syn208.rel.pkg
- dx70.ce8.2.0-syn208.rel.pkg
- cmterm-dx80-ce820-208-rel-no-default.cop.sgn
- cmterm-dx70-ce820-208-rel-no-default.cop.sgn

新しい（古いロードと置き換わる）ロード

- dx80.ce8.2.0-syn213.rel.pkg
- dx70.ce8.2.0-syn213.rel.pkg
- cmterm-dx70-ce820-213-rel-no-defaults.cop.sgn
- cmterm-dx80-ce820-213-rel-no-defaults.cop.sgn

変換ビルド間の違いは、最新の Android ソフトウェアリリース（10.5.2-213）に変換されることです。10.5.2-213 リリースは、リーリースされている 10.5.2-212 と同じものです。新しい変換ビルドでは、正常に CE から Android に変換された後でタッチ スクリーンが使用できないままになる潜在的な問題を防ぐことができます。10.5.2-213 は、スタンドアロン リリースとしてはリリースされません。

DX 上の Collaboration Endpoint Software：Android から CE への変換ロード

Android から Collaboration Endpoint Software への変換ロードは、次に示す CUCM デバイス パッケージごとに異なります。

- CUCM 11.5.1：cmterm-devicepack11.5.1.11001-2.cop.sgn
- CUCM 11.0.1：cmterm-devicepack11.0.1.22049-2.cop.sgn
- CUCM 10.5.2：cmterm-devicepack10.5.2.14076-1.cop.sgn
- CUCM 9.1.2：cmterm-devicepack9.1.2.16137-1.cop.sgn

現在、変換ロードは Cisco.com から入手可能です。Android から CE への変換前に、関連するデバイス パックを Cisco UCM に必ずインストールしてください。次の変換ガイドを参照してください。
https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/ce82/dx80-dx70-convert-between-CE-android-based-software.pdf

CE8.1.0 - HTTPS の TLS 1.0 の中止サポート

CE8.1.0 以上を実行する Cisco TelePresence Endpoints は、TLS バージョン 1.0 のセキュリティ上の問題により、TLS バージョン 1.1 と 1.2 のみサポートします。これは TLS バージョン 1.0 のみをサポートするサーバとの通信に影響を与える可能性があることに注意してください。TMS が、TLS バージョン 1.0 のみがデフォルトで有効になっている Windows サーバ（つまり、Windows Server 2008 R2）上で実行している場合、エンドポイントが CE8.1.0 にアップグレードされると、接続の問題が生じる可能性があります。CE8.1.0 以上にアップグレードする前に、TLS 1.2 または 1.1 がサーバで有効になっていることを確認してください。TLS 1.0 しかサポートしていない旧式のブラウザの場合は、エンドポイントの Web インターフェイスに HTTPS ではアクセスできない可能性があります。

CE8.0.0 - Collaboration Edge 用の更新された CA 証明書

注：このセクションは、TC7.3.2 以前から CE8.x にアップグレードする場合のみ適用されます。

Expressway（Collaboration Edge）インフラストラクチャ経由で CUCM に接続する場合に、エンドポイントが認識する CA 証明書のリストが更新されました。

注意：このファームウェアをエンドユーザのエンドポイントにプッシュする前に、Expressway インフラストラクチャ経由で CUCM によって使用されるサーバ証明書が有効と認識されていることを確認してください。

証明書が無効の場合、MRA エンドポイントはプロビジョニングできず、エンドポイントに物理的にアクセスするにはこの問題の解決が必要になる可能性があります。

RSA3 で署名される Collaboration Endpoint Software の CUCM 用 cop ファイル

ソフトウェア保全性保護を強化するために、Cisco Unified Communications Manager リリース 10.0.1 以上の cop ファイルの署名には、新しい公開鍵が使用されます。10.0.1 より前の Cisco Unified Communications Manager で Collaboration Endpoint Software 8.x の cop ファイルをインストールするには、ciscocm.version3-keys.cop.sgn の README をお読みになり、その追加の cop ファイルを、まず特定の Cisco Unified Communications Manager のバージョンにインストールする必要があるかどうかを判断してください。これらの鍵が存在していないものの必要である場合は、ソフトウェア パッケージをインストールしようとすると、「The selected file is not valid」というエラーが表示されます。拡張子「k3」がファイル名に追加されています（cmterm-s52010ce8_0_0.**k3**.cop.sgn）。

ciscocm.version3-keys.cop.sgn は、次のサイトにあります。

https://software.cisco.com/download/release.html?mdfid=283782839&reltype=all&relind=AVAILABLE&release=COP-Files&softwareid=282204704&sortparam=2

カメラ ファームウェア

以下の表で、CE ソフトウェア リリースに含まれているカメラ ソフトウェアの概要を確認できます。リストに掲載されているのは、新しいカメラ ソフトウェアのみです。このリストに掲載されていない場合、そのカメラ ソフトウェアは以前のリリースと同じままです。

リリース	ハードウェア名/ID	ソフトウェア名/ID	注記
CE8.3.1	Precision 60 55000000	HC8.3.1.3276302	
CE8.3.0	Precision 60 55000000	HC8.3.0.c1a7707	
CE8.2.2	Precision 60 55000000	HC8.2.2.3263c59	
	PrecisionHD 1080p 12x / Precision 12x 5000000(1-5)	S01718-4.0 FINAL ID:40085	
CE8.2.1	Precision 60 55000000	HC8.2.1.e9daf06	
CE8.2.0	Precision 60 55000000	HC8.2.0.d66bc59	
	PrecisionHD 1080p 2.5x 54000000	S01777-2.2 RC14 ID:20037	
	PrecisionHD 1080p 4x S2 / Precision 40 53000000	S01777-2.2 RC14 ID:20037	
CE8.1.1	Precision 60 55000000	HC8.1.1.a8488eee	
CE8.1.0	Precision 60 55000000	HC8.1.0.b8c0ca3	
CE8.0.1	該当なし	該当なし	
CE8.0.0	PrecisionHD 1080p 4x 52000000	S01752-2.0 FINAL ID:20011	
	PrecisionHD 1080p 2.5x 54000000	S01777-2.2 RC12 ID:20035	
	PrecisionHD 1080p 4x S2 / Precision 40 53000000	S01777-2.2 RC12 ID:20035	

	PrecisionHD 1080p 12x / Precision 12x 5000000(1-5)	S01718-4.0 FINAL ID:40084	
	Precision 60 55000000	HC8.0.0.2272c42	

SX20 Quick Set および SX80 カメラ サポート

コーデック	カメラ	サポートに関するコメント
SX20	PrecisionHD 1080p 2.5x	フル サポート
	PrecisionHD 1080p 4x S2 Precision 40	フル サポート
	PrecisionHD 1080p 12x	フル サポート
SX80	Precision 60	フル サポート
	SpeakerTrack 60	フル サポート
	PrecisionHD 1080p 4x S2 Precision 40	フル サポート
	PrecisionHD 1080p 12x	パン、ティルト、ズーム機能がある基本的な使用はサポートされます。 * このカメラのソフトウェア アップグレードは、このコーデックではネイティブにサポートされません。 * カメラのデイジーチェーン接続は、SX80 ではサポートされていません。

提供を停止したソフトウェアバージョン

ソフトウェア バージョンは、ソフトウェア内に重大な問題が見つかると、提供が停止されます。これは、問題の影響があるソフトウェア バージョンをユーザがダウンロードしてインストールするのを防止するための措置です。ソフトウェア バージョンが提供停止になる前には、その差し替えのソフトウェアが必ず用意されます。

すべてのプラットフォームに対応する CE8.0.0、CE8.0.1、CE8.1.0 の提供停止

2016 年 5 月 4 日に提供停止になりました。

詳細については、提供停止の通知をお読みください。

http://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/software/ce8/release-notes/cisco-ce800-ce801-ce810-deferral-notice.pdf

SX20 用の CE8.0.0 の提供停止

2016 年 1 月 20 日に提供停止になりました。

詳細については、提供停止の通知をお読みください。

http://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/software/ce8/release-notes/cisco_ce800_deferral_notice.pdf

CE8.3.1 の新機能

- マイナー リリース
- Cisco DX70 および DX80 用の新しいスタートアップ ウィザードの動作
- Cisco DX リーズ用の Android から CE への新しい変換ビルドが、CE8.3.1 とともにリリースされました

CE8.3.1 の新機能の説明

Cisco DX70 および DX80 用の新しいスタートアップ ウィザードの動作

最初のスタートアップ ウィザードが Cisco DX70 および DX80 に表示される場合、8 分のタイムアウト時間後に DHCP オプション 150 経由で UCM への登録を試行します。

- システムが自動的にプロビジョニングされることを示す通知が、4 分後に画面上に表示されます（オプション 150 が検出された場合）。
- オプション 150 が存在しない場合、システムは何も実行せず、ユーザがスタートアップ ウィザードを手動で完了するまで待機します。
- 最初の 8 分のタイムアウト後にプロビジョニングが失敗すると、システムは 2 分ごとに登録を再試行します。登録試行の後、ウィザードはオフになります。その他のすべての設定は、必要に応じて Web インターフェイスから実行する必要があります。
- ユーザがスタートアップ ウィザードを開始した場合、カウントダウンはキャンセルされるので、ウィザードを手動で完了する必要があります。

この動作は、UCM のプロビジョニングにオプション 150 が使用される場合にユーザによる操作の必要性を削減する目的で導入されました。Android から CE8.3.1 への新しい変換ビルドを使用すると、変換が正常に行われた後にこの機能が自動的に有効化されます。

CE8.3.0 の新機能

- Cisco DX70 および DX80 で有効になった新機能
  - Wi-Fi のサポート
  - Intelligent Proximity のサポート
  - ルーム内コントロール
  - UCM 機能のサポート
    - ボイスメール、全コール転送、共有回線、コンサルタティブの追加および転送、エクステンション モビリティ、複数のコール（通話）の保留、およびコール（通話）のマージ
  - コンピュータ ネットワーク ポートでの IEEE 802.1x 認証の有効化
- 室内制御：仮想ソースを使用した外部ビデオ スイッチャーの制御
- CMS 2.1 を使用したアクティブ コントロールのサポート
- LAN でペアリングされた Touch 10 を使用した Spark オンボーディング
- MX700 および MX800 シリーズの省電力モード
- マイナー変更
  - xAPI で使用できるメディア チャネルの詳細
  - HttpFeedback のフォーマット オプション
  - Cisco DX70/DX80 および SX10 へのネットワーク スピード設定の追加
  - 最初にスタートアップ ウィザードを実行する際の高度なセットアップ モード
  - コール制御下の Web インターフェイスで利用可能なキーパッドからの DTMF トーン
  - ラップトップから Proximity を経由するワイヤレス共有が、すべてのシステムでデフォルトで有効
  - EnglishUK および SpanishLatin の言語サポート

CE8.3.0 の新機能の説明

Cisco DX70 および DX80 で有効になった新機能

Wi-Fi のサポート

組み込み Wi-Fi アダプタ付で出荷される Cisco DX70 および DX80 システム用の CE8.3.0 では、Wi-Fi のサポートが有効になっています。

サポートされている IEEE 標準規格	サポートされるセキュリティ プロトコル
IEEE802.11n、IEEE802.11a、IEEE802.11g、IEEE802.11b	WPA-PSK（AES）、WPA2-PSK（AES）

他のエンタープライズ セキュリティ プロトコルも、今後の Collaboration Endpoint ソフトウェア リリースでサポートされる予定です。

ワイヤレス ネットワークに接続するためのオンスクリーン ユーザ インターフェイスでネットワーク設定にアクセスします。Wi-Fi を使用するには、イーサネット ケーブルを取り外す必要があります（接続されている場合）。イーサネット ケーブルが接続されていて、設定を続行するためにイーサネット ケーブルを取り外す必要があることをシステムが検知すると、通知が表示されます。

イーサネット接続が存在する場合は、常にこの接続が Wi-Fi よりも優先されます。

接続しようとしているネットワークがサポートされていない場合は、そのネットワークのセキュリティ プロトコルを DX システムがサポートしていないことを示すメッセージが画面に表示されます。

Intelligent Proximity のサポート

Collaboration Endpoint Software を実行する他のエンドポイントに合わせて、Cisco DX70 および DX80 でも Intelligent Proximity がサポートされるようになりました。この機能はデフォルトでは無効化されているため、設定で有効にする必要があります。Proximity が有効になっているルームごとに、1 つのエンドポイントだけがサポートされます。互いに近似した超音波を複数のシステムで送信すると、ノイズやペアリング状態の不安定化の原因となります。

すべての Proximity サービス、ワイヤレス共有、コンテンツ受信、Proximity クライアント経由のエンドポイント制御が、DX システムでサポートされます。ペアリングされたデバイスは、コールの遠端に共有されている場合にのみコンテンツを受信できることに注意してください。コンテンツが「プレビュー」されている場合、そのコンテンツがコールの内部と外部のどちらでプレビューされている場合でも、プライバシー保護のため、そのコンテンツはペアリングされたデバイスには送信されません。

DX70 および DX80 で一度にサポートされる同時 Proximity 接続は 3 つのみです。

ルーム内コントロール

Cisco DX70 および DX80 では、室内制御を有効にして、その会議室の照明、ブラインド、その他の装置を制御することができます。

この機能の使用方法の詳細については、以下から入手できる室内制御ガイドを参照してください。

http://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/telepresence-quick-set-series/products-installation-and-configuration-guides-list.html

ウィジェットのグラフィカル レンダリングに関連した制限があります。詳細については、「既知の制限事項とアドバイザリ」セクションを参照してください。

UCM 機能のサポート

CE8.3.0 を使用すると、Collaboration Endpoint ポートフォリオの他のエンドポイントでもサポートされている UCM 機能が Cisco DX70 および DX80 で有効になります。

- ボイスメール
- 共有回線
- エクステンション モビリティ
- すべてのコールを転送
- コンサルタティブの追加および転送
    - コンサルタティブの追加および転送を使用すると、追加または転送予定の参加者との相談や、追加/転送を完了する前に DTMF トーンを送信することが可能になります。
- 複数のコールの保留、およびコールのマージ（MGRL を使用）

コンピュータ ネットワーク ポートでの IEEE 802.1x 認証の有効化

Cisco DX70 および DX80 のコンピュータ ネットワーク ポートで、IEEE 802.1x 認証を有効化します。このポートに接続されているデバイスは、IEEE 802.1x 認証を使用して認証できます。

室内制御：仮想ソースを使用した外部ビデオ スイッチャーの制御

この機能を使用すると、Cisco TelePresence ビデオ システム（Cisco DX70 および DX80 を含む）の物理入力ソースを、1 つ以上のビデオ スイッチャー上でそれぞれの入力ソースを表す仮想ソースに拡張できます。仮想ソースは、共有トレイで表示でき（画面上か Touch 10 上）、ケーブル交換や入力ソースを手動で変更しなくても、他の任意の物理ソースとして表示できます。通常のユーザには、完全に透過的に表示されます。

作成できる仮想ソース数は、ビデオ スイッチャーで使用できる数によって決まります。仮想ソースは最大 50 以内にすることを推奨します。

外部ビデオ スイッチャーは、Crestron や AMX など、制御システムでサポートされている必要があります。これらはビデオ システム API と対話してこの機能を動作できます。

仮想ソースの設定方法の詳細については、次のリンク先を参照してください。

http://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/telepresence-quick-set-series/products-installation-and-configuration-guides-list.html

CMS 2.1 を使用したアクティブ コントロールのサポート

アクティブ コントロールは、Cisco TelePresence Server でしばらくサポートされ、Cisco TelePresence エンドポイントでサポートされてきた SIP 機能です。会議の参加者は、アクティブ コントロール機能を利用することにより、エンドポイントのユーザ インターフェイスを使用して、会議の詳細を受信したり、会議中にいくつかの管理タスクを実行したりできます。これには、誰が発言中、共有中、ミュート中であるかを示す参加者リストが含まれます。参加者のドロップ、ミュート、レイアウト変更などをアクティブに実行できます。

この機能は、CMS 2.1 によってホスティングされている電話会議と CE8.3.0 を実行中のエンドポイントでサポートされています。

アクティブ コントロールは、ルーム システムではデフォルトで [自動（Auto）] に設定されており、CMS 側で利用可能な場合は自動的にネゴシエートされます。

これまでは利用できなかった主な機能として、アクティブ コントロールはエンドポイントがサーバ側でミュートされたことをエンドポイントに通知し、エンドポイント側のミュート インジケータを赤色に点灯させます。他の通常のシナリオと同様、マイク、リモート コントロール、または Touch 10 にあるミュート ボタンを押すことで自身をミュート解除できます。DTMF シグナルを電話会議サーバに送信する必要はありません。

- デフォルトでベスト エフォート型の暗号化。
- 通話中のスピーカーを基にした適応型レイアウト。
- 録画ステータス インジケータ。
- アクティブ コントロール機能は、Web インターフェイスのコール制御エリアからも利用できます。

LAN でペアリングされた Touch 10 を使用した Spark オンボーディング

Spark をアクティベーションの代用として提供するために Touch 10 をビデオ エンドポイントに直接ペアリングする必要はなくなりました。システムが初期設定状態で「ウェルカム」画面が表示されている間に、Touch 10 をシステム IP アドレスにペアリングし、Touch 10 の手順に従います。

さらに、これまでは Spark で有効化されている TRC 6 リモート制御（Cisco TelePresence SX10、SX20 など）のシステムでのみサポートされていた、Touch 10 の動作が有効になりました。

LAN でペアリングされた Touch 10 を使用して Spark ルーム システムを Spark にオンボードするには、工場出荷時の状態から CE8.3.0 を実行している必要があります。「ウェルカム」画面が表示されており、ウィザードの完了前であることが必要です。この状態で Touch 10 をルーム システムにペアリングし、Touch 10 の手順に従います。

以下のルーム システム（工場出荷時の状態、CE8.3.0）での Spark 登録に必要な更新された要件：

Spark Room System	CE バージョン	Touch 10（ダイレクト）	Touch 10（LAN）	TRC6
SX10、SX10N	CE8.3.0	なし	あり	あり
SX20、SX20N	CE8.3.0	なし	あり	あり
SX80	CE8.3.0	あり	あり	なし
MX200 G2/MX300 G2	CE8.3.0	あり	あり	なし
MX700/MX800/MX800D	CE8.3.0	あり	あり	なし
DX70/DX80	CE8.3.0	該当なし （タッチ スクリーン使用）	該当なし （タッチ スクリーン使用）	該当なし

MX700、MX800、および MX800 Dual の省電力モード

「省電力」モードは、就業時間外や週末など、一定時間システムが使用されない間の電力消費を削減するために設定します。この機能は、通常のスタンバイ モードの拡張機能ですが、デフォルトで無効になっています。「省電力」モードを有効にする場合は、ビデオシステムの Web インターフェイスから省電力スケジュール（就業時間外）を設定することをお勧めします。

システムが「省電力」モードに入ると統合型カメラの電源がオフになるため、「省電力」モードではカメラ 1 台あたり約 15 W 節約できます。ビデオシステムは、通常の就業時間の 5 分前に省電力モードから自動的にウェイクアップし、設定された期間は通常のスタンバイ モードを使用します。省電力のスケジュールは [時間（Time）] 設定で利用でき、[スタンバイ（Standby）] 設定の [PowerSave（PowerSave）] を [OutsideOfficeHours（OutsideOfficeHours）] に設定することにより有効化できます。

コーデックは、システムのウェイクアップ中でもコールをすぐに送受信できますが、カメラが起動してセルフビューが表示されシステムが遠端にビデオ送信を開始するまでに約 1 分 45 秒かかります。これは、システムが就業時間外にウェイクアップし、省電力モードが有効になっている場合にのみ有効です。

マイナー変更

このセクションでは、Collaboration Endpoint Software 8.3.0 に導入された一連の関連するマイナー変更について扱います。

xAPI に表示されるメディア チャネルの詳細

コール中のパケット損失およびジッターに関するメディア チャネル情報は、xAPI に表示されるようになりました。メディア チャネルの詳細を表示するには、通話中に管理者ユーザとして xAPI から xStatus MediaChannels を実行します。

HttpFeedback のフォーマット オプション

HttpFeedback フォーマットは、サード パーティ製インタープリタまたは REST API 用に XML（Extensible Markup Language）の代用として JSON（JavaScript Object Notation）を設定できます。TMS は、自動的にデフォルトで HttpFeedback を XML としてプロビジョニングします。JSON をサポートしていないので、JSON を使用することはありません。

Cisco DX70 と DX80、および Cisco TelePresence SX10 で利用可能なネットワーク スピード設定

Web インターフェイス、または xAPI から設定できます。

最初にスタートアップ ウィザードを実行する際の高度なセットアップ モード

システムを手動で設定するかサード パーティ製アプリケーションを使用する必要がある場合には、プロビジョニング ウィザードで [高度なセットアップ（Advanced Setup）] モードを選択できます。

コール制御下の Web インターフェイスで利用可能なキーパッドからの DTMF トーン

Web インターフェイスからダイヤルする場合、必要に応じて、キーパッドで遠端に DTMF トーンを送信できます。

Intelligent Proximity – ワイヤレス共有サービスのデフォルトでの有効化

ワイヤレス共有は、Intelligent Proximity によって提供されるサービスです。ワイヤレス共有を使用すると、ラップトップでビデオ システムとコンテンツを共有できます。この設定はデフォルトで有効になるようになりました。Cisco Proximity デスクトップ クライアントからラップトップをビデオ システムにペアリングするには、Intelligent Proximity モードを有効にしておく必要があります。ワイヤレス共有サービスを使用するには、ペアリングが必要です。

Intelligent Proximity モードは、Cisco TelePresence MX200 G2、MX300 G2、MX700、MX800 および MX800D（DX70 および DX80 を除く）のような統合システムでのみ、デフォルトで有効です。

EnglishUK および SpanishLatin の言語サポート

画面上の表示とユーザ インターフェイスに EnglishUK と SpanishLatin のサポートが追加されました。

CE8.2.2 の新機能

- これはマイナー リリースで、セキュリティ修正などのバグ修正のみが含まれます。
- このリリースで解決されたバグに関連して、[追加（Add）] ボタンのロジックが一部変更されています。
  - 詳細については、このドキュメントの「CUCMMediaResourceGroupList」セクションにある「既知の制限事項」を参照してください。

CE8.2.1 の新機能

- これはマイナー リリースで、バグ修正のみが含まれます。

CE8.2.0 の新機能

- Cisco DX70 および DX80 用の Collaboration Endpoint Software のサポート
- Collaboration Endpoint ポートフォリオの Cisco Spark オンボーディング
- Touch 10 UI の変更
- Cisco TelePresence SX10 Quick Set の H323 サポート
- LDAP ユーザ認証のサポート
- 非管理者クレデンシャルを使用した Touch 10 のペアリング
- ルーム内コントロールの追加エントリ ポイント
- マイナー変更
- デフォルトのオプション キーの削除
- 新しいユーザ ロール:「RoomControl」
- カナダ フランス語の言語サポートの追加:フランス語(カナダ)
- Multistream 要件の更新

CE8.2.0 の新機能の説明

Cisco DX70/DX80 の Collaboration Endpoint Software のサポート

ソフトウェア バージョンが 10.2.5.212 以上の Cisco DX70 および Cisco DX80 は、Collaboration Endpoint Software に変換できます。

このプロセスにより、Android ベースの運用システムとすべてのアプリが削除され、システムは Collaboration Endpoint ポートフォリオ、およびその大半の機能と連携するピュアな TelePresence デバイスになります。変換後、Cisco DX70 および DX80 は、通常のプロセスとパッケージを使用して、さらにアップグレードできます。Collaboration Endpoint Software からの復帰は、CE8.2.x. からのみサポートされます。

Cisco DX70 または DX80 を Collaboration Endpoint Software に変換する方法、または Android ベースの OS に戻す方法については、次の変換ガイドを参照してください。

http://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/ce82/dx80-dx70-convert-between-CE-android-based-software.pdf

Collaboration Endpoint Software への変換後にシステムを運用する方法の説明については、次のアドミニストレータ ガイドを参照してください。

http://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/ce82/dx70-dx80-administrator-guide-ce82.pdf

注：Android ベースの OS から Collaboration Endpoint Software への変換には、UCM が必要です。現在の環境に変換を行うための UCM がない場合は、Cisco Technical Assistance Center に状況を報告してください。

注：Cisco DX650 は、Collaboration Endpoint Software への変換はサポートされません。サポートされるのは Cisco DX70 および DX80 のみです。

注：CUCM 9.1.2、10.5.2、11.0.1、および 11.5.1 では、変換プロセス後に CUCM が新規デバイスを認識するために、新規のデバイス パックが必要です。

CUCM 11.5.1：現在利用可能なデバイス パックなし

CUCM 11.0.1：cmterm-devicepack11.0.1.22048-1.cop.sgn

CUCM 10.5.2：cmterm-devicepack10.5.2.14076-1.cop.sgn

CUCM 9.1.2：cmterm-devicepack9.1.2.16137-1.cop.sgn

DX シリーズのエンドポイントを変換する前に、Collaboration Endpoint Software が Android ベースの OS とは異なることに注意しておくことは重要です。Android ベースの OS で使用可能な多くの機能は、CE への変換後は使用できません。しかし、Android ベースの OS で使用できない多くの機能を、CE で使用できるようになります。

DX シリーズの CE8.2.0 でサポートされる機能*		CE8.2.0 の DX 固有の機能
Spark / UCM / VCS 登録 LED 不在着信インジケータ TMS プロビジョニングとディレクトリ ClearPath レジリエンス H263/H264 SIP/H323 ドキュメント カメラ FECC：遠端カメラ制御 PC モニタ（1080p60） Expressway	HDMI 入力音声 保留/復帰 DTMF お気に入りに追加 「カメラ終了」インジケータ One Button to Push（OBTP） コンテンツ シェアリング（1080p5） 応答不可 フル Web アクセス リモート モニタリング オプション PID：L-DX-SERIES-RM	完全タッチ操作スクリーン Cisco ハンドセット用 Jabra 450 Plantronics P240 有線ハンドセット USB ヘッドセット** *このリストに記載しているのは、関連性が高い機能のみです。将来の CE リリースではさらに多くの機能が追加されます。 **既知の動作確認済みとテスト済みの USB ヘッドセットのリストについては、以下を参照してください。 http://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/ce82/dx70-dx80-user-guide-ce82.pdf

CE8.2.0 ではサポートされていないが、将来のリリースに含まれる可能性がある機能

Wi-Fi（CE8.3.0 でリリース）	お気に入りの編集（CE8.3.0 でリリース）
Bluetooth	エクステンション モビリティ（CE8.3.0 でリリース）
コール転送（CE8.3.0 でリリース）	OSD ミュート インジケータ（ミュート時にミュート LED が赤く点灯）
すべて転送（CE8.3.0 でリリース）	オーディオ コーン（CE8.3.0 でリリース）
共有回線（CE8.3.0 でリリース）	非標準型キーボードの言語ローカリゼーション キーボード制御
コンシェルジュ	キーボードとマウスのリダイレクト
ボイスメール（CE8.3.0 でリリース）	室内制御（CE8.3.0 でリリース）
自動応答（CE8.3.0 でリリース）	
UI での着信音と壁紙オプション	
Intelligent Proximity（CE8.3.0 でリリース）	

詳細については、『DX Administrator Guide』を参照してください。

完全なコラボレーション エンドポイント ポートフォリオ用の Cisco Spark オンボーディング

完全な Cisco TelePresence コラボレーション エンドポイント ポートフォリオ用の Cisco Spark オンボーディングは、CE8.2.0 からサポートされています。このポートフォリオには、Cisco TelePresence SX10（CE8.1.0 からは SX10N）、SX20、SX80、MX200 G2、MX300 G2、MX700、MX800、MX800 デュアル、DX70、および DX80 が含まれます。

Cisco TelePresence SX10、SX10N、および SX20 が TRC6 赤外線リモート コントロールで動作している場合、Cisco Spark へのオンボーディングのみサポートされます。

SX80、MX200 G2、MX300 G2、MX700、MX800、MX800D には、直接ペアリングされた Touch 10 パネルが必要です。Touch 10 がコーデックに直接ペアリングされていない場合、Cisco Spark にシステムを登録するオプションは表示されません。

Cisco Spark に関する詳細および Cisco Spark でエンドポイントをアクティブにする方法については、https://www.ciscospark.com/ を参照してください。

以下の Room Systems の Spark 登録の基本要件（工場出荷時のデフォルト設定）：

Spark Room System	最小の CE バージョン	Touch 10	TRC6	暗号化オプション キー
SX10N（CTS-SX10N-K9）	CE8.1.0	なし	あり	あり 8.1.0（なし CE8.2.0）
SX10（CTS-SX10-K9）	CE8.2.0	なし	あり	なし
SX20	CE8.2.0	なし	あり	なし
SX80	CE8.2.0	あり	なし	なし
MX200 G2/MX300 G2	CE8.2.0	あり	なし	なし
MX700/MX800/MX800D	CE8.2.0	あり	なし	なし
DX70/DX80	CE8.2.0	該当なし	該当なし	該当なし

Touch 10 UI の変更

ビジュアル更新は、Touch 10 の [セットアップとペアリング（Setup and Pairing）] ウィザードに適用されました。Cisco Spark に登録すると、Touch 10 の新しい GUI を使用できます。これは、Cisco TelePresence SX10 のオンスクリーン ユーザ インターフェイスに似ています。エンドポイントがオンプレミス インフラストラクチャに登録されている場合、Touch 10 パネルが CE8.1.1 などの既知のユーザ インターフェイスで起動します。

H.323 Cisco TelePresence SX10 Quick Set のサポート

Cisco TelePresence SX10 Quick Set では、コラボレーション エンドポイント ポートフォリオの他のエンドポイントに合わせて、H.323 プロトコルのサポートが追加されました。

LDAP ユーザ認証のサポート

CE8.2.0 以上を実行しているすべてのコラボレーション エンドポイントの LDAP サービスに対して admin ユーザ認証をサポートするために、新しい構成セットが追加されました。ローカル admin ユーザは常に存在し、アクティブであることに注意してください。

LDAP 機能は、標準 LDAP サービス（Microsoft Active Directory など）と連携します。この機能は、コーデックの Web インターフェイス/API 経由で有効にされて設定されるか、または UCM により一括でプロビジョニングされます。

認証に LDAP サービスを使用するようにエンドポイントが正しく設定された後、LDAP クレデンシャルでログインする方法については、以下の説明を参照してください。

- Web：<domain>\<LDAP username> または <LDAP username>@<domain>
- Touch 10 管理者設定：<LDAP username>@<domain>
- シェルの保護：ssh -l <LDAP username>@<domain> <codec-IP>
    - SSH および Touch 10 を使用してログインする場合、<domain>\<LDAP username> フォーマットはサポートされないことに注意してください。
    - Touch 10 は、LDAP クレデンシャルを使用してエンドポイントにペアリングすることはできません。

エンドポイントは、ユーザを認証するために LDAP サービスに直接接続します。LDAP サービスを介して認証できるすべてのユーザは管理者になります。この機能は、非管理者ユーザ ロールをサポートしていません。

非管理者クレデンシャルを使用した Touch 10 のペアリング

Touch 10 パネルは、非管理者または管理者クレデンシャルを使用して、CE8.2.0 以上を実行するコーデックにリモートでペアリングできます。「ユーザ」ロールのみが必須です。

Touch 10 のペアリングが正常に行われると、たとえば Touch 10 パネルをコーデックからペアリング解除するなど、管理者設定を元どおりに変更するには admin クレデンシャルが必要です。

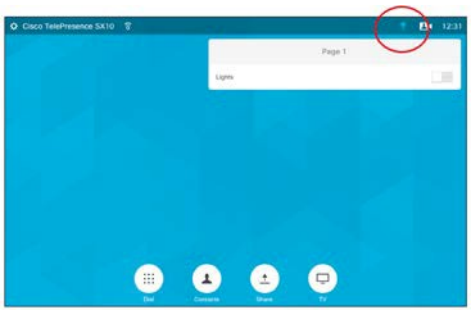
この機能により、オンサイトの非管理者ユーザが何らかの理由で Touch 10 をコーデックにペアリングしなければならない状況での手順を簡素化できます。管理者はこのシナリオを対象とした通常のユーザを作成し、セキュリティを犠牲にしないで、これらのクレデンシャルをユーザに提供できます。Touch 10 パネルのペアリングが正常に行われた後、通常のユーザはコーデックから安全に削除できます。

ルーム内コントロールの追加エントリ ポイント

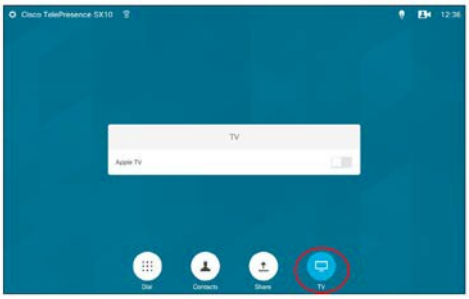
現在、ルーム内コントロールには 2 つのエントリ ポイントがあり、これらを使用してコンテキストに応じたルーム内コントロールを作成できます。エントリ ポイントは合計で 3 つあります。それは、グローバル、ホーム画面、コール中です。また、ルーム内コントロール エディタにはエントリ ポイント アイコンの幅広い選択肢が含まれています。

グローバル	ホーム画面	コール中
推奨機能: ▪ 照明 ▪ ブラインド ▪ 通気 コール内外で利用可能	推奨機能: ▪ TV ▪ サービス ▪ メディア コール外のみで使用可能	推奨機能: ▪ マイク ▪ 録音 ▪ ヘルプ コール内のみで使用可能

- グローバル



- ホーム画面



- コール中

マイナー変更

このセクションでは、Collaboration Endpoint Software 8.2.0 に導入された一連の関連するマイナー変更について扱います。

デフォルトのオプション キーの削除

次のオプション キーはほとんどのコラボレーション エンドポイントにデフォルトで含まれており、CE8.2.0 からはオプション キーとしてリストされません。

- NaturalPresenter
- DualDisplay
- HighDefinition
- PremiumResolution

これらのオプション キーが提供する機能はそのまま使用できますが、キーは冗長になっています。

これらのオプション キーを必要とするソフトウェア バージョンにダウングレードする必要がある場合に備えて、ダウングレード後に各機能を有効にするために、プリインストールされたキーがコーデックに保管されています。

新しいユーザ ロール:「RoomControl」

非管理者ユーザまたはインテグレータがルーム内制御エディタにアクセスするために、「RoomControl」ユーザロールが追加されます。「RoomControl」ロールは、新しい非管理者ユーザがコーデックの Web インターフェイスから作成されるときに割り当てることができます。

Multistream 要件の更新

このリリースでは、Multistream に Cisco UCM 11.0.1 が必要です。詳細については、「Multistream」の「既知の制限事項」セクションを参照してください。

CE8.1.1 の新機能

- これはマイナー リリースで、CSCuz26935 のバグ修正のみ含まれます。

CE8.1.1 の新機能の説明

重大なセキュリティ バグ CSCuz26935（CVE-2016-1387）が修正された CE8.1.1

Cisco TelePresence Codec（TC）およびコラボレーション エンドポイント（CE）システム ソフトウェアに含まれる脆弱性のため、認証されていないリモートの攻撃者が XML API にアクセスする際に認証をバイパスしてしまう可能性があります。

脆弱性の詳細については、次のセキュリティ アドバイザリを参照してください。
http://tools.cisco.com/security/center/content/CiscoSecurityAdvisory/cisco-sa-20160504-tpxml [英語]

脆弱性が含まれる次の CE8 リリースは、すべてのプラットフォームで Cisco.com からの提供が停止されています。CE8.0.0、CE8.0.1 および CE8.1.0

ソフトウェア提供停止に関する通知の詳細については、以下を参照してください。

http://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/software/ce8/release-notes/cisco-ce800-ce801-ce810-deferral-notice.pdf

シスコでは、上記のソフトウェア バージョンのいずれかを実行しているすべてのユーザに、この問題が解決されている CE8.1.1 にアップグレードすることを推奨しています。

CE8.1.0 の新機能

- Cisco TelePresence SX10 Quick Set の Cisco Spark アクティベーション（CTS-SX10N-K9）
- 新しいビジュアル デザイン
- ルーム内コントロール
- PresenterTrack
- Intelligent Proximity の更新
- マウス ポインタの共有
- オンスクリーンでの Intelligent Proximity サービスを有効化/無効化
- 遠端へのプレゼンテーションの直接共有
- マイナー変更
- オンスクリーン オーバースキャンの調整
- 暗号化されたアクティブ制御シグナリングのサポート
- MultiSite コールおよびポイント ツー ポイント コールでのオーディオ アバターの削除
- リモート ロギング

CE8.1.0 の新機能の説明

Cisco TelePresence SX10 Quick Set の Cisco Spark アクティベーション（CTS-SX10N-K9）

Collaboration Endpoint Software 8.1.0 では、Cisco Spark アクティベーションをサポートします。これは、サポートされるエンドポイントを Spark Cloud に登録し、追加の TelePresence インフラストラクチャを必要としないでビデオ通話に使用できるというものです。CE8.1.0 への Cisco Spark 登録をサポートする唯一のルームシステムは、PID 番号 **CTS-SX10N-K9** の Cisco TelePresence SX10 Quick Set です。このハードウェア リビジョンには、前面パネルに組み込みの超音波エミッタがあり、モバイル Cisco Spark クライアントとのペアリングを可能にします。SX10 の古いリビジョンには必要な超音波エミッタがなく、また Cisco Spark をアクティベーションの代用として備えていないため、Cisco Spark アクティベーションがサポートされません。

Cisco Spark でのルーム システムのアクティベーション要件

Cisco Spark で SX10 をアクティベートするには、次の要件を満たす必要があります。

- Cisco TelePresence SX10 Quick Set と正しい PID（CTS-SX10N-K9）
  - PID はユニットの背面で確認できます
- 実行中のソフトウェアが Collaboration Endpoint Software 8.1.0 以上である
- 暗号化オプション キーがインストールされている（デフォルトではインストールされています）
  - 暗号化オプション キーがインストールされていない場合、Cisco Licensing に問い合わせて、このキーを無料で入手できます
  - このキーがインストールされていない場合、セットアップ時に Cisco Spark でエンドポイントをアクティベートするオプションが表示されません
- TRC V リモート コントロール
  - 現時点では、ルーム システムを Cisco Spark に登録する際に、Touch 10 はサポートされていません
- https://admin.ciscospark.com から取得した Cisco Spark アクティベーション コード
  - 組織の有料のサブスクリプションが必要です
  - 詳細については、シスコの販売担当者にお問い合わせください

Cisco Spark へのオンボーディング

初回セットアップ時に、ルーム システムを Cisco Spark でアクティベートするか、それとも既存のオンプレミス インフラストラクチャでアクティベートするかを尋ねられます。Cisco Spark アクティベーションを選択したら、必要なアクティベーション コードを入力し、画面上の [アクティベート(Activate)] ボタンを押します。

ルーム システムが Cisco Spark でアクティベートされている場合、Collaboration Endpoint Software のユーザ インターフェイスに類似した Spark Room OS の最新バージョンがダウンロードされます。

Spark Room OS では、API および Web インターフェイスへのアクセスが制限されているため、Collaboration Endpoint Software と同じ管理機能はありません。いくつかの簡単な設定オプションのみ、OSD UI で使用できます。この段階から、ルーム システムはシスコにより管理されます。何か問題がある場合は、Cisco Spark モバイル アプリケーションまたは Cisco Cloud Collaboration Management(https://admin.ciscospark.com)を経由して、Cisco Technical Assistance Center にお問い合わせください。

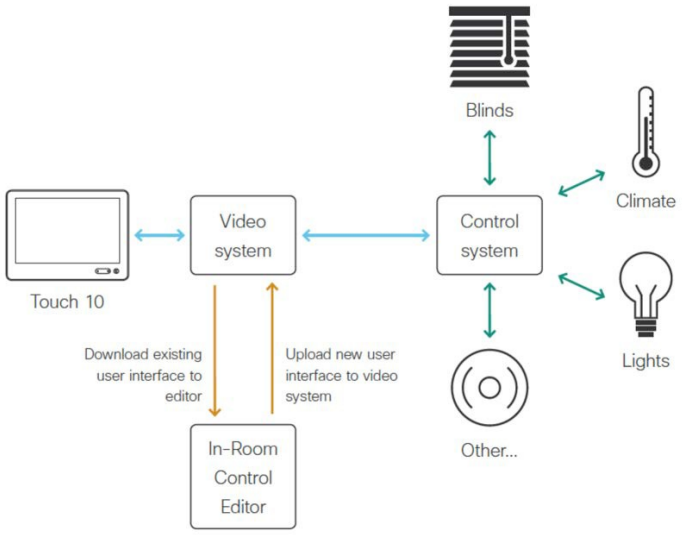
Spark Room OS とその機能の詳細については、以下を参照してください。https://help.webex.com

新しいビジュアル デザイン

ユーザ インターフェイスが新しいビジュアル デザインに更新されました。これには、エンドポイントをリモコン TRC 6 を使用して操作する場合と、Touch 10 上で操作する場合の両方のオンスクリーン ユーザ インターフェイスが含まれています。MultiSite コールと Multistream コールのラベルとアイコンの外観が新しくなりました。

ルーム内コントロール

室内制御機能を使用すると、会議室の周辺機器(たとえば照明やブラインドなど)を制御できるように、Touch 10 ユーザ インターフェイスをカスタマイズできます。周辺機器を制御するには、周辺機器のハードウェア ドライバを搭載したサードパーティ製の制御システム(Crestron、AMX、Apple HomeKit、Android など)が必要です。



グラフィカル ユーザ インターフェイスは、エンドポイントの Web インターフェイスで使用可能な簡単なドラッグ アンド ドロップ GUI エディタを使用して、誰でも設計できます。また、エディタをコーデックからダウンロードし、オフラインで使用して、後でファイルから設計をアップロードすることができます。

室内制御機能の設定の詳細については、次のユーザ ガイドを参照してください。
http://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/ce81/sx-mx-in-room-control-guide-ce81.pdf

PresenterTrack

PresenterTrack は、SpeakerTrack 60 のカメラの 1 台または Precision 60 カメラが、ステージ上の外観画像または会議室内のプレゼンター/インストラクターをデジタル方式で追跡できるようにする機能です。これにより、プレゼンターは追跡エリア内を自由に移動でき、カメラはそのプレゼンターを追跡できます。追跡はデジタル方式で行われるため、カメラは物理的にプレゼンターの後を追わないことに注意してください。

この機能はエンドポイントの Web インターフェイスで設定します。機能が設定されている間は、会議室にいることが推奨されています。機能を設定するには、セットアップ ウィザードのトリガー ゾーンを選択します。これは、顔が検知されると PresenterTrack を起動する外観画像内のエリアです。トリガー ゾーンを選択したら、Touch 10 から機能を有効/無効にすることができます。

注：PresenterTrack 機能は CE8.1.0 からのみ使用でき、SpeakerTrack 60 または Precision 60 カメラが必要です。エンドポイントが「ブリーフィング ルーム」モードに設定されていないと、SpeakerTrack と PresenterTrack 機能は同時にアクティブになりません。

Intelligent Proximity の更新

マウス ポインタの共有

デスクトップ 1.1.0 以上用 の Cisco Proximity 機能を使用して、アプリケーションはマウス ポインタをレンダリングします。この効果は新バージョンのアプリケーションを搭載した CE8.0.0 にも見られることに注意してください。

オンスクリーンでの Intelligent Proximity サービスを有効化/無効化

リモート コントロール TRC 6 を使用してエンドポイントを動作させる場合、ユーザは Intelligent Proximity サービスを一時的に有効/無効にすることができます。この機能は、Touch 10 で使用可能な以前のリリースの CE にのみ含まれています。

遠端へのプレゼンテーションの直接共有

プレゼンテーション ソースへの接続時に、コール状態で遠端の参加者とプレゼンテーションを自動的に共有するようにエンドポイントを設定できます。プレゼンテーション ソースを接続するときに、ユーザからの操作は必要ありません。コール外部でプレゼンテーション ソースを接続すると、設定は「OnConnect」設定のような動作をし、プレゼンテーションが自動的にローカルで表示されます。プレゼンテーション ソースがすでに接続されているときにユーザがコールする場合、プレゼンテーションを手動で共有するか、または再接続する必要があります。

マイナー変更

このセクションでは、Collaboration Endpoint Software 8.1.0 に導入された一連の関連するマイナー変更について扱います。

オンスクリーン オーバースキャンの調整

この機能は、画像の一部が表示されない場合に、画面に合わせて画像を調整するためのものです。ほとんどの画面には画像を調整する組み込み設定があります。最初にこの設定を試行してください。TRC 6 リモート コントロールで動作するシステムの場合、オーバースキャン値の調整は、セットアップ ウィザードで行うか、または設定メニューで [画面調整（Screen Adjustments）] を選択して行うことができます。

暗号化されたアクティブ制御シグナリングのサポート

Collaboration Endpoint Software バージョン 8.1.0 では、暗号化されたアクティブ制御シグナリングのサポートを追加しています。

MultiSite コールおよびポイント ツー ポイント コールでのオーディオ アバターの削除

以前に音声参加者を表していたフルスクリーン アバターは、ポイントツーポイント コールおよび MultiSite コールでは削除されました。アバターをブリッジ接続されたコールに表示することもできますが、そのような場合にエンドポイントはオーディオ アバターを制御しません。

リモート ロギング

Syslog または SyslogTLS を使用した完全なコーデック ログのリモート ロギングがサポートするようになりました。以前のバージョンのリモート ロギング機能では、セキュリティに関わる監査イベントのみが syslog サーバに記録されていました。この機能は、[設定（Setup）] -> [構成（Configuration）] -> [ロギング（Logging）] から、コーデック Web インターフェイスで設定します。

CE8.0.1 の新機能

- これはマイナー リリースで、CSCux85199 のバグ修正が含まれます。

CE8.0.1 の新機能の説明

SX20 Quick Set の重大なバグ（CSCux85199）が修正された CE8.0.1

1 月 15 日に、CE8.0.0 は Cisco TelePresence SX20 Quick Set で提供停止になりました。これは、CE8.0.0 から TC7.3.x へのダウングレード後に、マイク ミュート ボタン機能が中断するという問題が生じたためです。エンドポイントに TC7.3.x がインストールされており、CE8.0.0 で使用していない場合でも、SX20 Quick Set の出荷時に同じ現象のファームウェアが一部含まれている可能性があることに注意してください。

問題の詳細については、以下のソフトウェア提供停止に関する通知で確認できます。

http://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/software/ce8/release-notes/cisco_ce800_deferral_notice.pdf

この問題が発生している場合、TC ソフトウェアを実行しているのであれば、この問題が解決されている TC7.3.5 にアップグレードできます。CE8.0.1 からいずれかの TC7.3.x にダウングレードする場合、ミュート ボタン機能の中断は発生しません。

CE8.0.1 リリースにその他のバグ修正はありません。

CE8.0.0 の新機能

- Cisco Intelligent Proximity
- PC および MAC クライアントで使用する Cisco Intelligent Proximity
- Multistream
- マイク LED の動作変更
- 詳細設定のオンスクリーン認証
- TRC6 との併用時、SX20 Quick Set のユーザ インターフェイスが SX10 Quick Set と同一化
- サポートされる解像度
- SX10 Quick Set での 1080p 表示解像度
- マイナー変更
- DHCP オプション 150 の常時要求
- VU メーターを使用した超音波ペアリング品質の測定
- CUCM から HTTPS のみを使用するようにエンドポイントをプロビジョニング
- ホワイトボードへのスナップの改善
- [追加（Add）] ボタンのアクションの変更

CE8.0.0 の新機能の説明

Cisco Intelligent Proximity

Cisco Intelligent Proximity 機能は CE8.0.0 でサポートされます。このソフトウェア バージョンをサポートするすべてのエンドポイントはこの機能を利用できます。エンドポイントごとに、近接接続できるエンドポイントの最大数については、以下を参照してください。これらの数値には接続されたラップトップとモバイル デバイスの合計が含まれることに注意してください。

エンドポイント	同時近接接続の最大数
SX10	7
SX20	7
SX80	10
MX200 G2 MX300 G2	7
MX700 MX800 MX800D	10

注: 現在、Cisco Proximity を使用するには、エンドポイントに接続するデバイスに、ポート 443（HTTPS）上のエンドポイントへの IPv4 ルーティング可能ネットワーク パスが必要です。HTTPS をエンドポイントで有効にする必要があります。

注:エンドポイントには、超音波を生成できるスピーカーシステムが必要です。この超音波により、Cisco Proximity クライアント アプリケーションを実行しているデバイスとの無線ペアリングが可能になります。

Intelligent Proximity 機能により、ユーザは PC、MAC、iOS、Android デバイスをエンドポイントに無線で接続することができます。Intelligent Proximity が有効となっているサービスに応じて、ユーザは Android または iOS デバイスにローカル/リモートに共有したコンテンツを入手したり、エンドポイント コール制御にアクセスしたりできます。Intelligent Proximity を PC または MAC 用の Cisco Proximity アプリと接続すると、システムがコール中でない場合はローカルに、システムがコール中の場合はリモートに、ラップトップ画面の画像を無線で共有できます。

次の 3 つの Intelligent Proximity サービスは、管理者がエンドポイント上で個別に有効/無効にすることができます。

最初に、エンドポイントで Proximity モードが [オン（On）] になっていることを確認します。これにより、基本デバイス ペアリングを有効にし、次の Intelligent Proximity サービスの 1 つ以上を開始することができます。

- クライアントへのコンテンツ共有
  - この機能を有効にすると、iOS または Android デバイスにローカルまたはリモートに共有されているコンテンツを受け取ることができます。
  - エンドポイントは最大 10 個までのコンテンツ スナップショットを保存し、それらを接続されたデバイスへ送信します。これは、参加者が以前のスナップショットを確認する場合に便利です。ユーザはコンテンツを携帯デバイスに保存し、後で表示することができます。これらのスナップショットは、コールが切断されたときにエンドポイント上で削除されます。スナップショットは、コールの切断時に、ペアリングされたデバイスからは削除されないことに注意してください。
- クライアントからのコンテンツ共有
  - この機能を有効にすると、PC および MAC 上のクライアントは、コール中にコンテンツ スナップショットをローカルおよびリモートに共有できます。
  - 通話中に画面共有が PC/MAC の Proximity アプリケーションで有効になっている場合、リモート プレゼンテーションが自動的にトリガーされ、すべての参加者に共有コンテンツが表示されます。
- コール制御
  - この機能を有効にすると、ユーザは iOS または Android デバイスから Intelligent Proximity に接続して、次の基本的なコール制御アクションを行うことができます。
    - ディレクトリ ルックアップ
    - ダイヤル / 通話終了 / ミュート / DTMF トーン / 参加者の追加 / 音量コントロール

Proximity モードが有効で、1 つ以上の Intelligent Proximity サービスが有効になっている場合、Intelligent Proximity アイコンが Touch 10 パネルの左上隅に表示されます。このアイコンを押すことで、必要に応じて、Intelligent Proximity サービスを無効および有効にすることができます。これは、ユーザが Intelligent Proximity サービスを特定のセッション中に無効にしたい場合に便利です。

Cisco Intelligent Proximity のペアリング モードは、完結型ルーム システム（MX シリーズ）でデフォルトで有効であり、すべての Intelligent Proximity サービスはデフォルトでは無効です。つまり、出荷時の状態のまま、ユーザはシステムとのペアリングを行うことができ、サービスが有効でなければ通知を受け取ります。

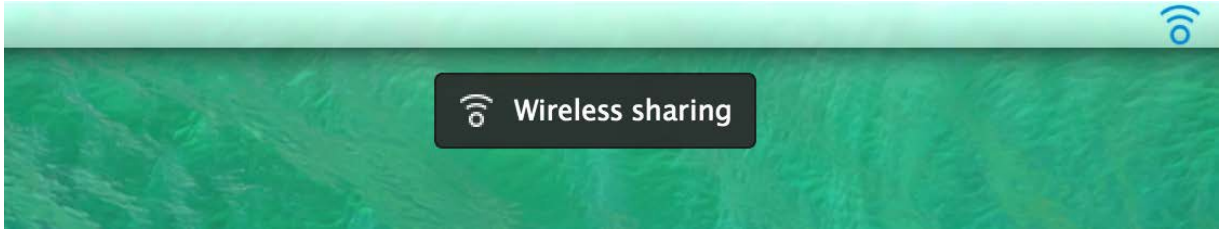
インテグレータ システム（SX シリーズ）では、Cisco Intelligent Proximity のペアリング モードはデフォルトで無効です。これらのデバイスがサードパーティ製機器とどのように設定されるかを予測できないためです。Intelligent Proximity のペアリング モードは SX シリーズでは手動で有効にする必要があります。

注：サポート、質問、トラブルシューティング情報については、下記リンクの Proximity のコミュニティにアクセスしてください。https://www.cisco.com/go/proximity-support

Cisco Proximity による、PC/MAC クライアントからエンドポイントへのコンテンツ共有

コラボレーション エンドポイント ソフトウェアにより、Cisco Proximity アプリケーションを実行している PC/MAC クライアントには、Intelligent Proximity ペアリングとコンテンツ共有の機能が導入されます。PC 用の Cisco Proximity アプリケーションは、ベータ版としてリリースされています。

画像は、画面のスナップショットとして低フレーム レートでエンドポイントに送信されます。そのため、この機能は、スライド ベースのコンテンツなどの静止画像を表示するには最適ですが、ビデオなどの動くコンテンツにはあまり役に立ちません。Proximity によりコンテンツが共有されると、画面上に [ワイヤレス共有（Wireless sharing）] の通知が貼られます。



これは、コンテンツの意図しない共有を避け、コンテンツが Proximity によって共有されていることを確認するために表示されます。

Cisco Proximity アプリケーションで共有されるのはビジュアル コンテンツのみで、音声コンテンツは共有されません。

詳細は、Cisco Proximity for Desktop のリリース ノート（https://www.cisco.com/go/proximity-support）を参照してください。

Cisco Proximity アプリケーションの可用性と要件

アプリケーション	最小要件	リリース ノート	ダウンロード先
Cisco Proximity for iOS	iOS 7 以降	Mac App Store	Mac App Store
Cisco Proximity for Android	Android 4.0 以降	Google Play Store	Google Play Store
Cisco Proximity MAC クライアント	OSX 10.9（Mavericks）以上	https://www.cisco.com/go/proximity-support https://proximity.cisco.com/changelog.html	https://proximity.cisco.com
Cisco Proximity PC クライアント（ベータ版）	Windows 7 以降	https://www.cisco.com/go/proximity-support https://proximity.cisco.com/changelog.html	https://proximity.cisco.com

Cisco Proximity for Desktop アプリケーションは、新しいバージョンが使用可能になると自動アップデートされます。

注：PC（Windows）用 Cisco Proximity クライアントは、クライアント バージョン 2.0.0 からサポートされます。以前のバージョンはベータでした。

注：PC、Mac、Android および iOS デバイス用の Cisco Proximity アプリケーションは無償ですので、Cisco Technical Assistance Center（TAC）のサポートはありません。

クライアント アプリケーション関連の問題やバグがあった場合は、必ず、シスコ サポート フォーラムに報告を投稿してください。この Cisco Proximity コミュニティはシスコの担当者によりフォローアップされています。エンドポイントでの Intelligent Proximity の機能についてのお問い合わせに使用することもできます。

サポートおよび問題のレポートには、https://www.cisco.com/go/proximity-supportのリンクを参照してください。

Multistream

Multistream は、エンドポイントがさまざまな解像度で複数のビデオ ストリームを送受信できるようにする機能です。これにより、TelePresence Server 上のトランスコーディングの負荷が下がり、エンドポイントで選択されているレイアウトに応じて、エンドポイントは低解像度の画像には低品質のストリームを使用できます。音声とプレゼンテーションは、以前と変わらず、Multistream が有効な TelePresence Server によってトランスコーディングされます。

この機能により、複数の参加者が会議に参加していても、ユーザ エクスペリエンスは強化されます。この機能の主なメリットは次のとおりです。

- Multistream が有効になっている会議に参加している場合、ビデオ参加者には 2 画面システム、つまり Cisco TelePresence MX700 および MX800 Dual システムの両方の画面を使用した表示が提供されます。
- レイアウト制御は、柔軟性が高く、エンドポイントでローカルに選択できます。このエクスペリエンスは、2 画面システムを使用すると強化されます。

上の例は、Multistream が有効でない会議での 2 画面システムを示しています。エンドポイントは、Cisco TelePresence Server から、トランスコーディングされたストリームを 1 つのみ受信しています。

上の例は、Multistream を有効にした同じ会議を示しています。

SX80、MX700、MX800 と MX800 Dual システムに第 3 の画面を接続するか、または MX200 G2、MX300 G2、および SX20 システムに第 2 の画面を接続した場合、追加された画面はプレゼンテーション専用に予約され、Multistream が有効な会議でビデオ参加者の表示に使用されることはありません。

エンドポイントで Multistream が有効な場合、Multistream をサポートする会議では可能なときは常に自動的に Multistream が使用されます。会議で Multistream が使用できない場合、トランスコーディングにフォールバックします。帯域幅が低すぎたり、エンドポイントに過剰なパケット損失が発生した場合も、同様のことが起こります。トランスコーディングへのフォールバック後に Multistream を有効にするには、エンドポイントを終了して、会議へのコールおよびダイヤルを再度行う必要があります。

注：Multistream は、デフォルトではエンドポイントで無効になっています。

注：Multistream が最新の使用可能なソフトウェア上で機能するには、すべての必要なビデオ インフラストラクチャおよびエンドポイントが必要です。

注：単一画面を備えた Multistream システムの推奨される帯域幅は 4 Mbps です。デュアル画面を備えたシステムの推奨される帯域幅は 6 Mbps です。

注：Multistream は現在 SX10 ではサポートされていません。詳細については、このマニュアルの「既知の問題」セクションを参照してください。

マイク LED の動作変更

コラボレーション エンドポイント ソフトウェアにアップグレードすると、外部マイクおよび Cisco TelePresence の Touch 10 パネル上のマイク ミュート ボタンを囲む LED は、通話中、コール受信中、またはコール作成中以外、点灯しなくなります。以前、この LED は緑色または赤色に常時点灯していました。システムが通話中でなくても、マイクがアクティブであれば緑色、マイクがミュートされていれば赤色に点灯していました。

次のシナリオで、マイク LED が点灯し、ミュート ボタンがアクティブになります。

- 発信コールを開始してからコールが切断されるまで。
- 着信コールが受信されてから、そのコールが切断されるまで。
- Web インターフェイスで VU メーターをアクティブ化して音量レベルをテストしている間。

色の意味（緑色がアクティブ、赤色がミュートを示す）には変更がありません。

注：PID 番号 CTS-SX20CODEC の Cisco TelePresence SX20 Quick Set にはこの機能がなく、システムがアイドル状態のときにもマイク LED が点灯します。PPID 番号 CTS-SX20NCODEC の SX20 Quick Set では、マイク LED の動作は、上記の説明のとおりです。PPID 番号は、コーデックの底面に記載されています。

詳細設定のオンスクリーン認証

Touch 10 パネルでの詳細設定は、管理者クレデンシャルにより保護されます。

SX10 および SX20 のオンスクリーン詳細設定は、許可されないユーザがエンドポイントの設定を変更できないよう、PIN で保護することができます。この設定は、コーデック Web インターフェイスを使用して設定することができます。

TRC6 との併用時、SX20 Quick Set のユーザ インターフェイスが SX10 Quick Set と同一化

SX20 Quick Set および SX10 Quick Set は、TRC6 リモートを含むエンドポイント制御をサポートしています。SX20 Quick Set のオンスクリーン ユーザ インターフェイスは、コラボレーション エンドポイント ソフトウェア上のインタラクティブな SX10 Quick Set ユーザ インターフェイスに合わせて、同じようになります。

サポートされる解像度

SX80、MX700、MX800、および MX800D には、ローカルおよびコール内の WUXGA（1920x1200）のサポートが追加されました。

コラボレーション エンドポイント ソフトウェアは、16:9 または 16:10 の解像度のみサポートします。これは、コラボレーション エンドポイント ソフトウェアがインストールされているすべてのエンドポイントに適用されます。

SX10 Quick Set での 1080p 表示解像度

SX10 Quick Set にはソフトウェア拡張が追加され、1 秒あたり 5 フレームでの 1080p 表示を、ローカルで、およびコール内で共有できるようになりました。

マイナー変更

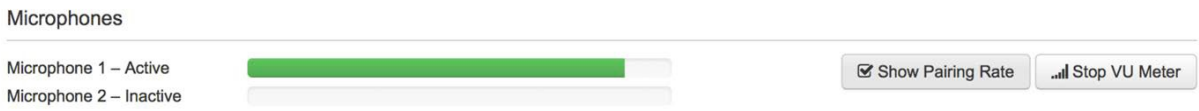
ここでは、コラボレーション エンドポイント ソフトウェア 8.0.0 の一連の関連する小さな変更について説明します。

DHCP オプション 150 の常時要求

エンドポイントは DHCP 要求に常にオプション 150 を使用します。ユーザがこれを設定することはできません。

VU メーターを使用した超音波ペアリング品質の測定

VU メーターは、マイクの音声のレベルを確認する Web ツールです。このツールは、超音波がエンドポイントの 1 または複数のスピーカーから適切に発せられてエンドポイントの 1 または複数のマイクに適切に集音されていることを確認するための方法を提供します。この機能を有効にするには、エンドポイント Web インターフェイスから VU メーターを開始し（[構成（Configuration）] > [周辺機器（Peripherals）] > [VU メーター（VU Meter）]）、[ペアリング レートの表示（Show Pairing Rate）] ボタンをオンにします。0 ～ 100% の範囲を表す緑色のバーにより、エンドポイント自体が送信している超音波信号をどの程度エンドポイントがデコードしているかが示されます。



CUCM から HTTPS のみを使用するようにエンドポイントをプロビジョニング

エンドポイントを CUCM からプロビジョニングして、HTTPS または HTTPS+HTTP だけを使用するようにできます。

ホワイトボードへのスナップの改善

「ホワイトボードへのスナップ」機能が改善されました。プレゼンターがホワイトボードの横に立っていることを検出すると、システムは自動的にプレゼンターを含めるようにイメージを拡大します。以前に TC7.3.x でこの機能を使用していた場合は、CE8.0.0 でホワイトボードのプリセットを再設定して、この機能を完全に有効にすることを推奨します。詳細については、SX80 の管理者ガイドを参照してください。

CE8 の未解決および解決済みの不具合

Bug Search Tool の使用

Bug Search Tool を使用して、問題についての説明や可能な回避策など、本リリースの不具合（バグ）に関する情報を検索することができます。Bug Search Tool には、未解決の不具合と解決済みの不具合の両方が表示されます。**リリース ノートには、未解決または解決済みのバグのサブセットは記載されません。**定義済みリンクにより、すべての未解決または解決済みのバグの正確なリストが提供されます。定義済み検索にリスト表示されるシリーズ/モデルは汎用のものであり、コラボレーション エンドポイント ソフトウェアを実行するすべての製品に関連するすべてのバグがリスト表示されます。

Bug Search Tool を使用するには、以下のステップに従います。

ステップ 1： http://www.cisco.com/cisco/psn/bssprt/bss [英語] に移動して、バグ検索ツールにアクセスします。

ステップ 2： Cisco.com のユーザ ID とパスワードを使用してログインします。

ステップ 3： 特定の問題に関する情報を検索するには、[バグ ID の検索（Search for bug ID）] フィールドにバグの ID 番号を入力し、[移動（Go）] をクリックします。

特定のソフトウェア リリースの未解決および解決済みの不具合のリストにアクセスするには、次のリンクを使用します。

ソフトウェアのバージョン	解決済みの不具合	未解決の不具合
CE8.3.1	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=8.3.1&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=8&sb=anfr&sts=open&bt=custV
CE8.3.0	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=8.3.0&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=8.3.0&sb=anfr&sts=open&bt=custV
CE8.2.2	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=8.2.2&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=8.2.2&sb=anfr&sts=open&bt=custV
CE8.2.1	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=8.2.1&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=8.2.1&sb=anfr&sts=open&bt=custV

CE8.2.0	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=8.2.0&sb=fr&sts=fd&bt=cust V	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=8.2.0&sb=anfr&sts=open&bt=custV
CE8.1.1	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=8.1.1&sb=fr&sts=fd&bt=cust V	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=8.1.1&sb=anfr&sts=open&bt=custV
CE8.1.0	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=8.1.0&sb=fr&sts=fd&bt=cust V	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=8.1.0&sb=anfr&sts=open&bt=custV
CE8.0.1	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=8.0.1&sb=fr&sts=fd&bt=cust V	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=8.0.1&sb=anfr&sts=open&bt=custV
CE8.0.0	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=8.0.0&sb=fr&sts=fd&bt=cust V	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=8.0.0&sb=anfr&sts=open&bt=custV

既知の制限事項とアドバイザリ

制限事項とアドバイザリ

機器/機能	要約
Spark の有効化	Spark の有効化は、スタートアップ ウィザードからのみ実行できます。また、システムが初期設定状態である必要があります。 CE8.3.0 から、Spark の有効化は、LAN でペアリングされた Touch 10 から実行できます。スタートアップ ウィザードがアクティブなうちに Touch 10 を LAN 上のビデオシステムにペアリングしてからでなければ、システムは有効化できません。Spark で有効化された後は、Touch 10 をペアリング/再ペアリングするオプションはありません。
CUCM	**CUCM でプロビジョニングする場合の H.323 および SIP に関する考慮事項** CUCM プロビジョニングを使用する場合、エンドポイントを VCS（SIP または H.323）に同時に登録することはできません。ユースケースはサポートされていません。CUCM プロビジョニングがアクティブのとき、H.323 モードは無効です。TelePresence カスタマーは H.323 から SIP に移行されることを推奨します。 プロビジョニング モードを [CUCM（CUCM）] に設定せずに CUCM に登録するシナリオは、サポートされていません。
CUCMMediaResourceGroupList	**MRGL を使用した参加者の追加** CE8.0.0 から CE8.2.1 まで有効： MCU に接続済みの場合、着信コールを追加/マージすることはできません。着信コールのダイアログでは、[追加（Add）] ボタンが [応答と保留（Answer & Hold）] に代わります。 MCU によってホスティングされている会議にダイヤルインする場合、追加の参加者を追加する機会は失われます。カスケード化された会議間ではコンテンツの共有機能が損なわれてしまう可能性があるためです。こうすることで会議のカスケード化を防ぐ目的があります。 CE8.2.2 以降： 上記の変更が変更され、[追加（Add）] ボタンが利用可能になりました。MCU コール中に参加者を「追加」すると、カスケード化された会議が作成され（別な場所でホスティングされている異なる 2 つの MCU の 2 つの会議が接続される）、このシナリオでは 2 つの会議

	間でコンテンツ シェアリングが予想通りに動作しなくなる可能性があることに注意してください。
Cisco TelePresence SX20 Quick Set	**マイクのミュート ボタン** PID 番号 CTS-SX20CODEC の SX20 Quick Set with のマイクミュート ボタンが、システムが通話中でないときにも点灯（赤色または緑色）することは、既知の問題です。この問題は、CE8 を実行する PID 番号 CTS-SX20N-CODEC の SX20 Quick Set の新しいハードウェア リビジョンでは解決されています。PPID 番号は、コーデックの底面に記載されています。 **バグ ID：CSCux85199** 特定のシリアル番号範囲内の SX20 が CE8.0.0 から TC ソフトウェアにダウングレードしている場合、マイク LED は適切に動作しません。症状としては、システムがミュートされていないときにも、マイク LED が赤色に点灯します。 *CE 8.0.1/TC7.3.5 で解決されています*
Cisco TelePresence SX10 Quick Set	**H.323** H.323 は、CE8.2.0 より前のソフトウェアを実行中のこのエンドポイントではサポートされません。 *CE8.2.0 以降 H.323 のサポートが追加されました。* **音声の問題（CSCvb27626 および CSCvb87521）** CE8.x から TC ソフトウェアにダウングレードする場合、HDMI 出力や HDMI 入力の音声の損失原因となる音声に関する個別の 2 つの問題が発生する可能性があります。両方の問題を解決するには、システムを初期設定にリセットしてください。
Cisco TelePresence SX80、MX700、MX800、MX800D	**帯域幅の制限** これらのシステムで使用できる最大帯域幅は、エンドポイントの高負荷に関連した制限により、6000 Kbps（以前は 10000 kbps）に制限されます。これに対する修正が今後のリリースで計画されています。
Cisco DX70 & DX80	**CE8.2.0 でサポートされない機能のリストについては、「新機能の説明」のセクションを参照してください。** **室内制御（CE8.3.0）** 解像度が低いウィジェットを大型表示しピクセル化する原因となる制限事項が存在します。これは、CE ソフトウェアの今後のリリースで解決される予定です。
TRC6 リモコン	**保留ボタン** システムが Touch 10 にペアリングされている場合、保留ボタンがサポート

	されます。ただし、SX10 Quick Set または SX20 Quick Set で TRC6 リモート コントロールを使用している場合には、サポートされません。 *CE8.3.0 で解決されています*
H.265	**H.265 は SIP でのみ機能します** H.265 プロトコルは SIP でのみ機能し、現在、SX80/MX700/MX800/MX800D でのみサポートされています。
Multistream	**CE8.2.0 では Multistream に CUCM 11.0.1 が必要** CE8.2.0 で Multistream を使用し続けるには、CUCM 11.0.1 が必要です。CUCM 11.0.1 と Multistream の複数のバグ修正により、この要件が CE8.2.0 で導入されました。 **バグ ID：CSCut47719** Multistream モードで動作しているエンドポイントは、アクティブ コントロールにより受信したメッセージをレンダリングしません。たとえば、Multistream モードのユーザには、会議終了時刻に関する警告メッセージが表示されません。 *CE8.2.0 で解決されています* **Multistream SIP SDP メッセージのサイズが CUCM に対して大きすぎる場合があります** 症状としては、コールが失敗します。バージョン 11.0.1 より前の CUCM のデフォルトの SIP 最大受信メッセージ サイズは、11000 バイトです（CUCM 11.0.1 へのアップグレードを含む）。Multistream ネゴシエーションを含む着信 SIP メッセージを処理できるようにするには、この設定を手動で 15000 バイトに変更する必要があります。この変更には CUCM サービスの再起動が必要です。CUCM 11.0.1 以降が Multistream には必要です。 **CUCM SIP プロファイルには iX アプリケーション メディアが必要です** Multistream が動作しない場合は、エンドポイントの割り当て済み SIP プロファイルで iX アプリケーション メディアが許可されていることを確認してください。許可されていなければ、コールを Multistream として設定することはできません。 **Cisco DX70、DX80 および Cisco TelePresence SX10 Quick Set** これらのビデオ システムは Multistream をサポートしていません。 **保留/復帰（アドホック マルチストリーム コール）** バージョン 11.0.1 より前の CUCM で保留および復帰が Multistream が有効なエンドポイントに関与している場合、CUCM は sip.cisco.multistream ヘッダーを取り除き、TelePresence Server はこのエンドポイントのトランスコーディングに切り替わります。 *この問題は、CUCM 11.0.1 以降で解決されています。* **Multistream エンドポイントは、イマーシブ 3 画面システムからの PiP を 1**

	つしか表示しません Multistream が有効なエンドポイント（SX80 など）では、3 画面システム（IX5000 など）で通話中のとき、3 画面システムからの 3 つの PIP すべてを表示しません。現在のアクティブな発言者を示す 1 つの PIP のみを表示します。 **Bandwidth** MX700 および MX800 Dual（2 画面システム）で完全な Multistream のエクスペリエンスを実現するには、最低 6 mbps のデフォルト帯域幅を使用することを推奨します。低帯域幅を使用すると、TelePresence Server は特定のエンドポイントでトランスコーディングにフォールバックします。パケット損失時にはさらにこれが発生する可能性が高くなります。単一画面システムでは 4 Mbps が推奨されます。 **バグ ID：CSCuu69550** 画面上のミュート表示：サーバ側でミュートされている会議の参加者は、会議中に [*6] を押してミュートされても、それを知らされません。
Cisco Intelligent Proximity	**質問とサポートについては、シスコ サポート フォーラムを参照してください** http://www.cisco.com/web/go/proximity-support **トラブルシューティング ガイド** https://supportforums.cisco.com/document/12159326/troubleshooting-guide-cisco-proximity **強力なセキュリティ モード（JITC）** 強力なセキュリティ モードを有効にすると、Proximity のトラフィックは Collaboration Endpoint から意図的にブロックされます。システムの強力なセキュリティ モードが有効な場合は、Proximity をオフにする必要があります。
Touch 10	**バグ ID：CSCum67440** パネルの起動時にエリアに触れると、Touch 10 コントローラの画面上でそのエリアが動かなくなる場合があります。起動フェーズで、タッチ校正処理が行われるためです。このときに何かがタッチ パネルに触れると、そのエリアは Touch 10 が再起動されるまで機能を失う可能性があります。これを避けるため、ブート中にはタッチパネルに触れないでください。 **TC から CE へのアップグレード後には、Touch 10 を再起動する必要があります。** ソフトウェアの制限により、リモートでペアリングされた Touch 10 は、TC から CE へのアップグレード後にハングする可能性があります。この問題を解決するため、Touch 10 の電源を切断して再接続すると Touch 10 は再起動します。

アクティブ コントロール	**バグ ID：CSCuo88201** アクティブ コントロールは、デフォルトで [自動（Auto）] に設定されています。[自動（Auto）] に設定されている場合、エンドポイントはこれをネゴシエートし、VCS トランク経由で CUCM 8.6.2 に達すると、[503 サービス不可（503 Service Unavailable）] によりコールは失敗します。アクティブ コントロールは CUCM 9.1.2 でサポートされます。問題を回避するには、[会議 1（Conference 1）] を [オフ（OFF）] に設定してアクティブ コントロールを無効にするか、ゾーン プロファイルをカスタムに変更し、SIP UDP/IX フィルタモードを [オン（ON）] に設定することで、X8.1.x を実行中の VCS 側からこれをフィルタリングして除去します。 **バグ ID：CSCuu28355** 参加者をドロップする権限を持たないゲストとしてエンドポイントが CMR にダイヤル インする場合にも、ドロップ ボタンが表示されます。クリックしても何も起こりません。*Collaboration Endpoint Software 8.1.0 で解決されています。*
Web インターフェイス	**バグ ID：CSCul35568** Windows XP で実行中の IE8 の暗号スイートのサポートがないために、シスコのセキュリティ要件による HTTPS アクセスができません。Chrome、Firefox、Opera ブラウザは問題なく動作します。これらのブラウザには、必要な暗号スイートのサポートがあります。IE8 は、Windows Vista、Windows 7、Windows 8 では正常に動作します。
SNMP	**バグ ID：CSCtq44757** コラボレーション エンドポイント ソフトウェアは、デフォルトの SNMP コミュニティ ストリングにより設定されます。これは、「プラグ アンド プレイ」機能に必要です。SNMP コミュニティ ストリングはクレデンシャルとして処理する必要があり、したがって、初期設定後に変更する必要があります。
セキュリティ	**バグ ID：CSCtr32420** コラボレーション エンドポイント ソフトウェアとともに出荷されるコーデックは、シスコの標準パスフレーズ ポリシーに適合しません。システムが侵害されるのを避けるため、インストール時にユーザがシステムのパスフレーズを設定することを推奨します。
IPv6	**バグ ID：CSCuo94615** DHCPv6 のオプション 242 は、コラボレーション エンドポイント ソフトウェアを実行しているエンドポイントでサポートされません

管理	**Cisco TelePresence Management Server（TMS）** One Button to Push（OBTP）を使用する会議のスケジュールは、TMS 15.0 および CE8 を使用した場合、正しく動作しません。このバグに対する修正は、TMS 15.1 で実装されます。 **CE8.1.0 以降を実行するエンドポイントで、HTTPS に対する TLS 1.0 がサポートされません。** CE8.1.0 にアップグレードした後、システムが TMS で HTTPS 応答をまったく見せない場合は、TLS1.1 か TLS1.2 が TMS サーバで有効になっていることを確認してください。
カメラ プリセット	**バグ ID：CSCux71105** TC ソフトウェアから CE ソフトウェアにアップグレードすると、すべてのカメラプリセットが失われます。これは、ハードウェアの制限であり、ソフトウェアでは解決されません。
PresenterTrack	**PresenterTrack が MultiSite と Multistream コールで無効です** MultiSite および Multistream コールでは、PresenterTrack 機能を使用できません。 **トリガー ゾーンの設定** Web インターフェイスでトリガー ゾーンを設定する場合は、既知の制限があります。（[保存（Save）] ボタンを押す押さないに関わらず）青い四角を移動または配置すると常に、トリガー ゾーンが保存されます。エンドポイントのセルフビューに表示される青い四角は、設定を Web から手動で保存するか、または Touch 10 .から PresenterTrack のプリセットをアクティブ化するまで消えません。
スタートアップ ウィザード	スタートアップ ウィザードがアクティブで画面か Touch 10 に表示されている間は、システムによって [応答不可（Do Not Disturb）] モードが意図的に有効化されます。スタートアップ ウィザードがアクティブな間、DND モードはオフにできません。スタートアップ ウィザードを削除するには、手順に従ってスタートアップ ウィザードを正常に終了するか、「RunStartupWizard」の値を [False（False）] に設定してオフにします。これは Web インターフェイスから実行する必要があります。設定を検索するには、設定検索フィールドで検索する必要があります。
Presentation	**バグ ID：CSCuh68226** MacBook Air で VGA ドングルに MiniDisplay ポートを使用すると、ビデオをコンテンツとして表示して共有することができません。MacBook Pro では、問題なくコンテンツはビデオとして表示されます。これは Apple の問題であると考えられます。
H.323	CE8.3.0 以降、xConfiguration H323 Encryption KeySize（<Max1024bit, Min1024bit, Min2048bit>）のデフォルト値が、Max1024bit から Min1024bit に変更されました。

カスタム壁紙	**バグ ID：CSCvb67596** カスタム壁紙を使用したシステムでは、時計、[今日の予約（today’s bookings）]、[ワンボタン（One Button to Push）] などの画面上の要素が表示されません。この制限は、カスタマイズされた壁紙にこれらの要素がどのように表示されるかが確かではないため、意図的に設けられたものです。Touch 10 により操作されるシステムと比べて、Cisco TelePresence SX10、SX20、DX70、および DX80 のようなオンスクリーンで操作されるシステムはこの制限事項の影響が大きくなります。これは、これらのシステムに OBTP 参加機能がないためです。 CE8.3.0 以降、回避策が導入されました。この回避策により、会議の開始時（事前アラームはサポート外）にミーティングアラームが画面に表示され、カスタム壁紙が設定されたオンスクリーンで操作されるシステムでも OBTP を使用して会議に参加できるようになりました。注：このアラームを無視した場合、会議には手動で参加することが必要になります。

相互運用性

本リリースとの相互運用性についてテストされた機器とソフトウェア リビジョンについては、「相互運用性」のセクションで説明しています。注：このセクションに記載のないデバイスやリビジョンは、相互運用性がないというわけではありません。

H.323 ゲートキーパー/トラバーサル サーバ

機器	ソフトウェアのバージョン	説明
Cisco TelePresence System Video Communication Serve（VCS）	X8.x	Assent と H.460.18/.19 トラバーサルの両テクノロジーがサポートされています

SIP レジストラ/プロキシ

機器	ソフトウェアのバージョン	説明
CUCM	9.1、10.0、10.5、11.0、11.5	
Cisco TelePresence System Video Communication Serve（VCS）	X8.x	

ゲートウェイの相互運用性

機器	ソフトウェアのバージョン	説明
Cisco ISDN Link	IL1.1.6	
Cisco ISDN GW 3241	2.2	

MCU の相互運用性

機器	ソフトウェアのバージョン	説明
Cisco Meeting Server（CMS）	2.x	
Cisco Telepresence Server 7010	4.2, 4.3(x.x)	
Virtual TelePresence Server	4.2, 4.3(x.x)	
Cisco Telepresence Server MSE 8710	4.2, 4.3(x.x)	
Cisco MCU 53xx	4.5(x.x)	
Cisco MCU 42xx	4.5(x.x)	
Cisco MCU 45xx	4.4, 4.5(x.x)	
Cisco CTMS	未サポート	CTMS は、コラボレーション エンドポイント ソフトウェアを実行しているエンドポイントでサポートされません。

ストリーミング サーバ

機器	ソフトウェア リビジョン	説明
Cisco TelePresence System Content Server	S5.3、S6.x、TCS7.0、TCS7.1	

管理サーバ

機器	ソフトウェア リビジョン	説明
CTS マネージャ	未サポート	CTS マネージャは、コラボレーション エンドポイント ソフトウェアを実行しているエンドポイントでサポートされません。
TelePresence Management Suite	15.0、15.1、15.2、15.3	15.3 以降を推奨（DX シリーズ TMS 管理のサポートには TMS15.3 が必要）

エンドポイントの相互運用性

一般情報	既知の影響を受けるエンドポイント		説明
H.265 の相互運用性	**Polycom Lifesize** **Vidyo**		シスコでは、 H.265 エンドポイント（SX80、MX700、MX800、および MX800D）とサードパーティのエンドポイントとの相互運用性の問題を確認しています。症状としては、一方または両方の方向からのビデオが着信されません。 一部のケースでは、この問題を解決できる回避策は、上記の Cisco エンドポイントで H.265 を無効にすることです。Web インターフェイスより、[システム設定（System Configuration）] で「H265」を検索し、[実験用会議 1 ビデオ プロトコル H265 無効化（Experimental Conference 1 VideoProtocol DisableH265）] を [オン（On）] に設定してください。
シスコ	**ソフトウェアのバージョン**	**プロトコル**	**説明**
Cisco TelePresence System 500series 3x00series 1x00series TX9000 TX9200 TX1310	1.10.7（Ten Bears）	SIP	最大解像度 720p30 ポイントツーポイント
Cisco TelePresence System CTS500-32 TX1300 TX9000 TX9200	TX6.0.2（Lago）	SIP	Lago 1G コーデックで 1080p30/60 のサポート
Cisco TelePresence MX G1 シリーズ	TC6.x、TC7.x	SIP/H.323	
Cisco TelePresence EX シリーズ	TC6.x、TC7.x	SIP/H.323	
Cisco TelePresence C シリーズ	TC6.x、TC7.x	SIP/H.323	
Cisco IP Video Phone E20	TE4.1.x	SIP/H.323	

Sony	ソフトウェアのバージョン	プロトコル	説明
Sony PCS-1		H.323/SIP	デュアル ストリームは 1 FPS に制限されます。 メイン ビデオのフレーム レートは 15 FPS を超えることはありません。
Sony PCS-XG80		H.323/SIP	SIP 遠端カメラ制御が機能しません。SIP 暗号化コールが機能しません。 SIP/H.323 転送が機能しません。 Sony はプレゼンテーション（BFCP）を開始できません。
Lync	**ソフトウェアのバージョン**	**プロトコル**	**説明**
Microsoft Lync	2013	VCS x8 からの VCS トランク経由での SIP	2013 年 9 月にリリースされた VCS X8 が必要です。
Polycom	**ソフトウェアのバージョン**	**プロトコル**	**説明**
Polycom VSX 7000		H.323/SIP	ビデオ レートが低く、メイン ビデオがシャープネスに設定されている場合、VSX にビデオは表示されません。 SIP/H.323 転送が機能しません。 H.264 は低帯域幅でのみ使用されます。
Polycom Real Presence Group 500		H.323/SIP	FECC 制御が着信コールで動作しません。 H.323 無人転送が着信/発信コールで失敗します。 発信コールでの CE から CE への SIP 無人転送にビデオが含まれません。
Polycom Real Presence Group 300		H.323/SIP	FECC 制御が発信/着信コールで使用できません。 H.323 無人転送が発信コールのすべてのコールを切断します。 発信コールでの CE から CE への SIP 無人転送にビデオが含まれません。 H.323 無人転送は成功しますが、ビデオは着信コールの両端で失われます。
Polycom HDX 9000		H.323/SIP	
Polycom HDX 8000 HD		H.323/SIP	CE エンドポイントへの発信コールの SIP にビデオが含まれません。

カメラ

機器	ソフトウェア リビジョン	説明
サード パーティのカメラ	該当なし	シスコのコーデックをサード パーティのカメラにより使用することが可能ですが、テストされていないため、機能は保証できません。TAC サポートは拒否または制限される場合があります。

xAPI の変更

コラボレーション エンドポイント ソフトウェア バージョン 8 以降の API は、TC ソフトウェアに比べて、大幅に削減/変更されています。エンドポイントの設定は、API コマンドラインからでなく Web インターフェイスから行うことを推奨します。

API からの場合、管理ユーザは関連のコマンドと設定のサブセットにしかアクセスできません。Web インターフェイスでは、管理ユーザはすべての設定を使用でき、システムを完全に管理できます。リモートサポート ユーザは、使用している場合、API コマンドの完全なリストにアクセスできます（TAC 契約が必要）。

特定の xAPI の変更はリリース ノートに公開されません。インテグレータ製品の Cisco API のリファレンス ガイドは、以下のリンクより参照してください。

DX70 および DX80：http://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/desktop-collaboration- experience-dx600-series/products-command-reference-list.html [英語]

MX シリーズ：http://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/telepresence-mx-series/products-command-reference-list.html [英語]

SX シリーズ：http://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/telepresence-quick-set-series/products-command-reference-list.html [英語]

Cisco TelePresence systems のハードウェア依存

はじめに

ハードウェア コンポーネントの不定期更新が原因で、新しく製造されたエンドポイントでの古いソフトウェアの実行に制約がある場合があります。エンドポイントの互換性レベルを確認するには、エンドポイントの Web インターフェイスにアクセスし、[構成（Configuration）] > [システム ステータス（System Status）] > [システム ユニット（SystemUnit）] を順にクリックします。このページで、[互換性レベル（Compatibility level）] までスクロールします。次の表を使用して、エンドポイントの互換性レベルに基づいてソフトウェアの制約を判別することができます。

サポートされないソフトウェア バージョンにダウングレードすると、障害が発生します。

最新のソフトウェア リリースは常に、すべてのハードウェア バージョンと後方互換性があります。

SX10

互換性レベル	適用可能なシステム	説明	最小ソフトウェア バージョン
			CE8
0	SX10	該当なし	すべて
1	SX10	該当なし	すべて
2	SX10	該当なし	すべて
3	SX10	該当なし	すべて

SX80、MX700、MX800、MX800 Dual

互換性レベル	適用可能なシステム	説明	最小ソフトウェア バージョン
			CE8
0	SX80	該当なし	すべて
0	MX700/MX800/MX800D	該当なし	すべて

SX20、MX200 G2 および MX300 G2

互換性レベル	適用可能なシステム	説明	最小ソフトウェア バージョン		
			CE8		
2	SX20	該当なし	すべて		
3	SX20	該当なし	すべて		
4	SX20	該当なし	すべて		
5	SX20	該当なし	すべて		
0	MX200 G2	該当なし	すべて		
1	MX200 G2	該当なし	すべて		
2	MX200 G2	該当なし	すべて		
0	MX300 G2	該当なし	すべて		
1	MX300 G2	該当なし	すべて		
2	MX300 G2	該当なし	すべて		

DX70 および DX80

互換性レベル	適用可能なシステム	説明	最小ソフトウェア バージョン
			CE8
0	DX70	該当なし	8.2.0
0	DX80	該当なし	8.2.0

Cisco TelePresence Touch 10 のハードウェア依存

Cisco TelePresence Touch 10 用の新しいハードウェア リビジョン

Touch 10 をサポートするシステムは、SX10(N)、SX20(N)、SX80、MX200 G2、MX300 G2、MX700、MX800 および MX800D です。

タッチ コントローラでは、ハードウェア リビジョン番号は、起動時にタッチ スクリーンの右下に表示されます。

ハードウェア リビジョン	適用可能なシステム	説明	最小ソフトウェア バージョン
			CE8
102300-3 102310-0 102310-1	すべて	該当なし	サポートされるコーデック ソフトウェア バージョンはすべて、互換性があります

次の表には、このマニュアルで参照されるドキュメントおよび Web サイトを示します。当社の Web サイトですべての製品マニュアルを参照できます。

名前	参照ドキュメント
シスコの Web サイト	http://www.cisco.com
Cisco Software のダウンロード	http://www.cisco.com/cisco/software/navigator.html?i=!ch [英語]
Cisco TelePresence User Documentation	http://www.cisco.com/go/TelePresence/docs

ソフトウェアのファイル名

次の表に、ソフトウェアの正確なファイル名を示します。

コラボレーション エンドポイント ソフトウェア	SX20 用ソフトウェア
AES 暗号化	s52010ce8_3_1.pkg
暗号化なし	s52011cenc8_3_1.pkg
CUCM の AES 暗号化	cmterm-s52010ce8_3_1.k3.cop.sgn
CUCM の暗号化なし	cmterm-s52011cenc8_3_1.k3.cop.sgn

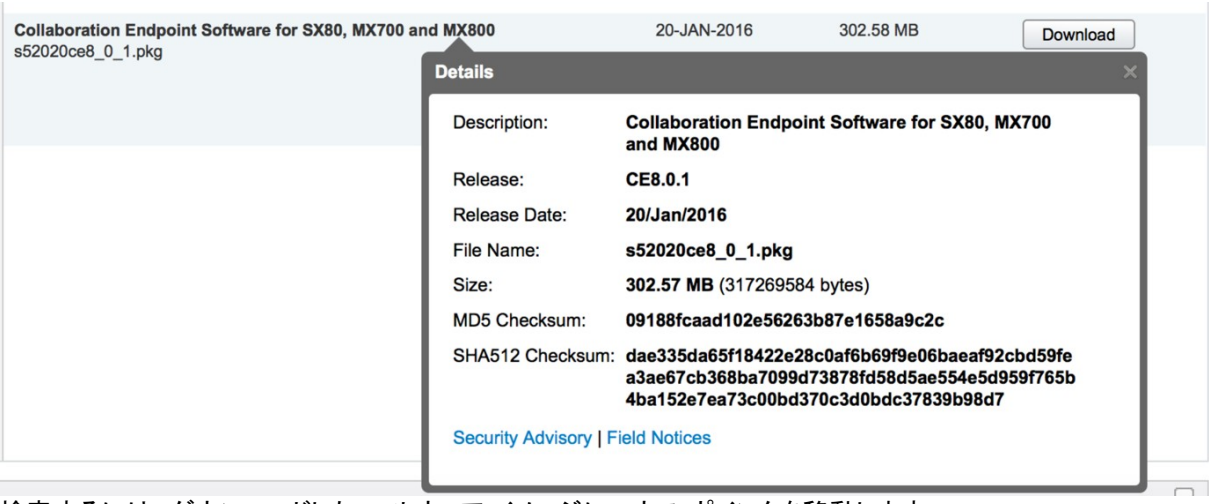
コラボレーション エンドポイント ソフトウェア	SX10 用ソフトウェア	MX200 G2、MX300 G2 用ソフトウェア	SX80、MX700、MX800、MX800 Dual 用ソフトウェア	DX70、DX80 用ソフトウェア
暗号化と非暗号化	s52030ce8_3_1.pkg	s52010ce8_3_1.pkg	s52020ce8_3_1.pkg	s52040ce8_3_1.pkg
CUCM の暗号化と非暗号化*	cmterm-s52030ce8_3_1.k3.cop.sgn	cmterm-s52010ce8_3_1.k3.cop.sgn	cmterm-s52020ce8_3_1.k3.cop.sgn	cmterm-s52040ce8_3_1.k3.cop.sgn
CUCM の暗号化と非暗号化* バンドル**	cmterm-ce8_3_1.k3.cop.sgn	cmterm-ce8_3_1.k3.cop.sgn	cmterm-ce8_3_1.k3.cop.sgn	cmterm-ce8_3_1.k3.cop.sgn

*SX10、SX80、MX700、MX800、MX800D、DX70 および DX80 は、暗号化、非暗号化でソフトウェア パッケージが区別されていません。これらのシステム（DX70 および DX80 を除く）では、暗号アルゴリズムを有効にするための暗号化オプション キーが必要です。

**この Cisco Options Package では、1 つのファイル内のすべての製品プラットフォームのソフトウェア パッケージが含まれています。

ソフトウェア整合性の確認

cisco.com からダウンロードしたソフトウェア イメージの整合性を確認するには、SHA512 チェックサムを計算し、それがソフトウェアのダウンロード ページに記載されているものと一致するかを確認します。チェックサムを



検索するには、ダウンロードしたソフトウェア イメージにマウス ポインタを移動します。

下部に SHA512 チェックサムが表示されます。チェックサムの一部しか表示されない場合は、末尾の「...」を押すと、展開することができます。

ローカル デスクトップで SHA512 チェックサムを計算する場合は、次の表を参照してください。

オペレーティング システム	SHA512 チェックサム の計算コマンド例
Microsoft Windows	コマンドライン ウィンドウを開き、次のコマンドを入力します > certutil.exe -hashfile s52020ce8_0_1.pkg SHA512
Apple MAC	ターミナル ウィンドウを開き、次のコマンドを入力します $ shasum -a 512 s52020ce8_0_1.pkg

Linux	ターミナル ウィンドウを開き、次のコマンドを入力します
	$ sha512sum s52020ce8_0_1.pkg
	または
	$ shasum -a 512 s52020ce8_0_1.pkg

SHA512 チェックサムが一致すれば、ソフトウェア イメージが改竄されておらず、ダウンロード中にイメージが破損されていない確実性は高くなります。

SHA512 チェックサムが一致しない場合、いかなるシステムもこの破損したソフトウェア イメージでアップグレードしないことをお勧めします。ソフトウェアを再度ダウンロードし、SHA512 チェックサムを再度確認してください。何度も不一致になる場合は、Cisco Technical Assistance Center に状況を報告してください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

ハード コピーおよびソフト コピーの複製は公式版とみなされません。最新版はオンライン版を参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト（www.cisco.com/go/offices）をご覧ください。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries.To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: http://www.cisco.com/go/trademarks. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)